

千葉県八千代市

小板橋遺跡 d 地点

— 宅地造成地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

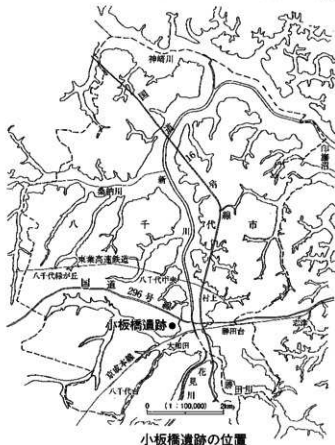
平成 24 年度

川城 きよ

八千代市教育委員会

凡 例

1. 本書は、八千代市教育委員会が平成23年度民間開発等埋蔵文化財調査事業として実施した発掘調査の報告書である。この調査は宅地造成事業に伴うもので、事業者である川城きよ氏の委託を受けて実施した。
2. 遺跡名は小板橋遺跡d地点、所在地は千葉県八千代市大和田字中畑ヶ169-1・3・4、165-25、167である。
3. 調査及び整理は、以下のとおり実施した。
 確認調査 平成23年度市内遺跡調査事業として、国庫及び県費の補助を受けて実施した。
 期間 平成23年8月23日～9月8日 面積170㎡/1,846.8㎡
 本調査 期間 平成23年11月10日～平成24年2月21日 面積1,177㎡
 本整理 期間 平成24年6月1日～平成25年3月31日
4. 出土した遺物のほか、写真・図面等の調査資料は、八千代市教育委員会が保管している。
5. 本書の図版作成は、常松成人・宇都洋子・半澤秀子・増田幸枝・見神光忠・山下千代子が行い、遺物写真撮影・編集・執筆は常松が担当した。
6. 遺構Noは、数字と記号（アルファベット）の組合せで表記した。記号は以下のとおりである。
 竪穴住居跡 D 陥穴・土坑・地下式坑 P 溝跡・溝状遺構 M その他の遺構 I
 単独の遺構の場合、数字+上記記号とし、付属遺構の場合はその後にはP+数字で表記したが、調査・整理の結果、所見が変わっても記号・番号はそのまま用いている（例 2M-P1土坑、1Dの164P柱穴など）。
7. 土層説明中のZHBとは、全掘時に掘り広がった部分である。
8. 土層説明・出土遺物で用いた砂・礫の表記と大きさの関係については、土壌学及び国際法の基準に従い、以下のとおりである（単位：mm、礫の大きさは長径）。
 大礫 200～100、中礫100～50、小礫50～10、細礫10～2、粗砂2～0.2、細砂0.2～0.02
9. 中世遺物の一部については、船橋市教育委員会の道上文氏にご教示いただきました。記して謝意を表します。





第1図 明治時代の小坂橋遺跡周辺 (明治15年迅速測図に加筆)



第2図 小坂橋遺跡周辺地形図

第2節 小板橋遺跡の概要

遺跡の立地 小板橋遺跡は、市城の南部、新川西岸の小板橋小支台上にある。新川谷と高津川谷（ケイガラ谷津）、その支谷である名木支谷によって画された台地上が遺跡で、標高は24m以下である。d地点は、遺跡北東部の標高20.8～22.2mの地点で、北には中畑公園、東は2～3mの段差で低くなり、さらにその東一帯は標高7～9mの新川谷となる。南には新川谷からの緩やかな小谷がd地点に沿うように入っており、かつては湧き水もあったとのことである。本地点は宅地化の進んだ区域の中の駐車場と一段低い畑地であり、畑地には若干の雑木が残存していた。

d地点の北方には国道296号線（成田街道）が走り、この街道沿いに菅田町の時平神社（d地点の北東170m）、真言宗豊山派薬師寺（同北西200m）が所在する。南方250mには小板橋の時平神社が所在する。

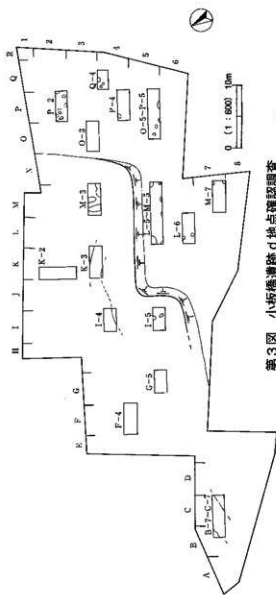
これまでの調査 小板橋遺跡については、昭和55年3月に宅地造成に先行して市教委が5,379.55㎡の確認調査を実施したのが、初めての調査である。本調査は同年7月～8月に八千代市遺跡調査会によって実施され、古墳時代中・後期の竪穴住居跡13軒等（石製模造品工房跡を含む）が検出された（a地点）。これを受けて昭和58年刊行の八千代市埋蔵文化財包蔵地所在調査の報告書「八千代の遺跡」では、遺跡No245として掲載された（市教委1983年）。昭和59年8月にも宅地造成に先行して3,400㎡の確認調査を実施し、本調査は同年9月～10月に実施され、古墳時代中・後期の竪穴住居跡2軒等が検出された。この調査については、b地点として八千代市遺跡調査会から報告書が刊行されている（八千代市遺跡調査会2008年）。昭和61年8月には16㎡を対象に調査したが遺構等は検出されなかった（b地点第2次とする）。平成17年3月には、福祉施設建設に先行し、遺跡範囲の南方で確認・本調査を実施し、古墳時代の溝状遺構3条、縄文土器（前期）、古墳時代土師器を検出した（c地点）。

以上により、本遺跡は、石製模造品の工房跡を含む古墳時代中・後期の集落跡を主体とする遺跡であり、権現後遺跡・北海道遺跡・川崎山遺跡とともに、新川西岸の石製模造品の工房群の一角を担う集団の遺跡と捉えることができる。

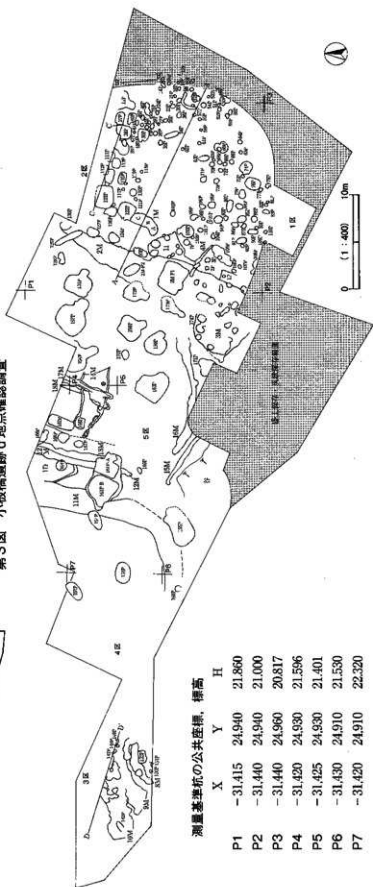
また、d地点で明らかとなった中世の遺跡に関わる要素としては、b地点の報告書に掲載されたグリッド出土遺物のすり鉢等の陶器がある。さらにd地点の近隣住民が、付近で出土したという土師質土器を所有しており、これが16世紀代の土器と判断される（第24図45）。

他に、地名として字中畑ヶの東～南東に隣接して「古屋敷」という字名があり、これが近世和田宿の時代から見た「古屋敷」という意味であれば、中世遺跡の存在を示唆するものかもしれない。

周辺の遺跡 南東に堰場台遺跡・堰場台古墳があり、前者では古墳時代初頭の竪穴住居跡が確認されており、後者では箱式石棺が調査され、人骨約11体分と直刀・鉄鍬・刀子・耳環・ガラス玉・メノウ製勾玉等が出した。北には上ノ山遺跡と上ノ山古墳群、さらにその北には川崎山遺跡、白幡前遺跡、非戸向遺跡、北海道遺跡、権現後遺跡という菅田地区遺跡群が連なっている。



第3図 小坂橋遺跡d地点確認調査



第4図 小坂橋遺跡d地点本調査

測量基座杭の公共座標、標高			
	標高		
X	Y		
P1	H		
-31,415	24,940	21,860	
P2	-31,440	24,940	21,000
P3	-31,440	24,960	20,817
P4	-31,420	24,930	21,596
P5	-31,425	24,930	21,401
P6	-31,430	24,910	21,530
P7	-31,420	24,910	22,320

第2章 検出された遺構と遺物

今回の調査では、遺構として竪穴住居跡1軒、土坑200基、溝状遺構2基、溝跡11条を検出した。遺物としては、現地でもNoを付けて取り上げたもの779点、一括で取り上げたもの1023点、合計1802点を得た。その内容は、土器片各種(縄文土器3点、弥生土器1点、土師器1346点—古墳時代、奈良・平安時代—、須恵器14点、中・近世瓦質土器・素焼土器37点、かわらけ6点等)、陶磁器類(常滑産の壺等)97点、土製品(支脚4点、管状土錘1点)、焼成粘土塊26点、石製品(石製模造品2点、紡錘車1点、板碑1点、砥石3点等)、小礫53点、中礫2点、鉄製品(角釘等)16点、鉄滓6点、人歯16点、貝殻(ハマグリ、アサリ、アカニシ等)、炭化材等である。原則として時代別に分類し、以下に報告する。

第1節 縄文時代

遺構としては、陥穴と考えられる土坑6基を検出し、調査した。遺物は土器片3点である。

1. 遺構(第5図、第1表)

34P土坑

標高 上面標高20.254~20.307m、底面標高19.712~19.904m。 覆土 7.5YR3/3(暗褐色土)。出土遺物 鉄分の塊1点。高師小僧の類か。特記事項 検出面~底面まで粘土層である。中世の整地のために、上部が削り取られて浅くなっているものと思われる。

2 M-P2土坑

標高 上面標高20.281~20.617m、底面標高19.300~19.337m。 覆土 下部のみ観察。1 7.5YR7/1(明褐色灰色粘土)に3/3(暗褐色土)・7/4(にぶい橙色粘土)が混じる。2 7.5YR4/3(褐色土)に粘土が混じる。特記事項 検出面~底面まで粘土層であるが、上部標高19.75m付近までは白色粘土、19.60m付近までは褐色粘土、それ以下は青灰白色粘土であった。

125P土坑

標高 上面標高21.174~21.373m、底面標高20.321~20.403m。 出土遺物 縄文土器1点、土師器小片3点、鉄滓1点、小礫1点。特記事項 検出面はローム層、底面は粘土層に達している。この種の土坑の覆土は、上層と下層で様相に違いが見られる。通常はロームブロックであるが、本遺跡の場合は粘土を含みまりの崩れ土が下層にあり、これは人為的に埋め戻された土と考えられる。上層の1・2は、その後の自然堆積と考えられる。以下の土坑にも概ね同様の状況が見られる。

152P土坑

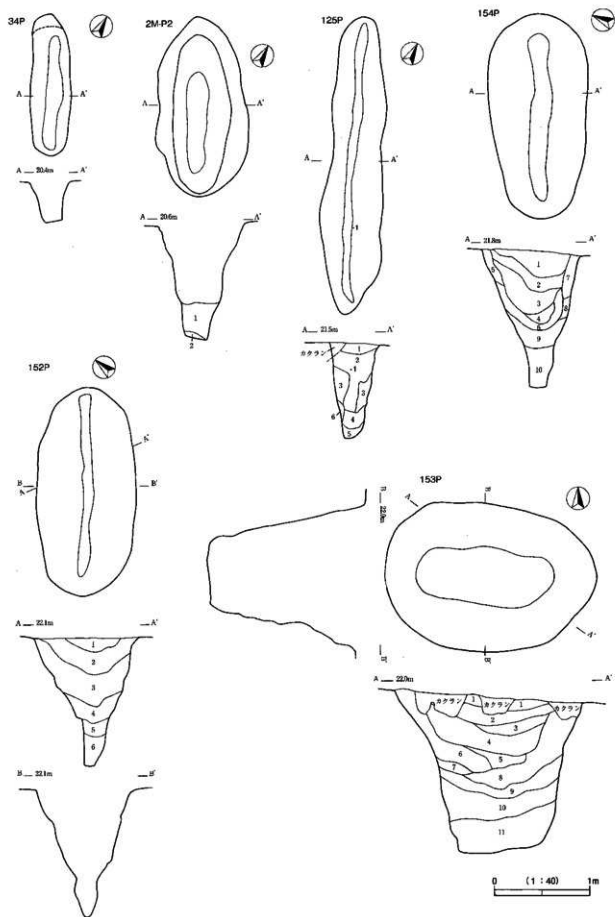
標高 上面標高21.815~21.991m、底面標高20.529~20.680m。 特記事項 検出面はローム層、底面は粘土層に達している。

153P土坑

標高 上面標高21.713~21.894m、底面標高20.189~20.296m。特記事項 検出面はローム層、底面は粘土層に達している。

154P土坑

標高 上面標高21.517~21.727m、底面標高20.136~20.489m。特記事項 検出面はローム層、底面は粘土層に達している。覆土の観察から、2回の掘り返しが行われたのではないかと推察する。最初に掘られた土坑が最も深く、それが人為的に埋められた土が9・10でさらに7・8によって埋まる。この後に、1回目の掘り返しが中層までの深さで行われる。その土坑も5・6の土によって埋まる。その後さらに浅く2回目の掘



第5図 縄文時代遺構実測図

第1表 縄文時代遺構(陥穴)計測表

遺構No	位置	平面形態	上面規模(m)	底面形態	底面規模(m)	深さ(m)	長軸方位	遺物
34P	1区	長楕円形	1.5×0.43	長楕円形	1.2×0.18	0.42	N-17°-W	1点
2M-P2	1区2M内	長楕円形	1.9×0.93	長楕円形	1.06×0.23	1.22	N-28°-W	なし
125P	2区	長楕円形	3.15×0.66	長楕円形	2.96×0.11	1.01	N-28°-W	6点
152P	4区	長楕円形	2.21×1.06	長楕円形	1.93×0.12	1.35	N-49°-E	なし
153P	4区	楕円形	2.21×1.57	長楕円形	1.46×0.62	1.68	N-89°-W	なし
154P	4区	長楕円形	2.16×1.05	長楕円形	1.78×0.22	1.43	N-63°-E	なし

125P土坑の覆土

No	色	しまり	含有物等
1	褐色上(やや暗色)	中	
2	褐色上	中	灰質土
3	褐色上	弱	ロームブロックを含む。
4	褐色土	弱	
5	褐色土	弱	粘土を含む。
6	褐色上	中	ローム。

154P土坑の覆土

No	色	しまり	含有物等
1	暗褐色土(白色味)	中	
2	暗褐色～黒褐色上	中	ロームを含む。
3	暗褐色土・褐色土	中	径1cmロームブロックをまばらに含む。
4	暗褐色土・黒褐色土	中	ローム、径1～2cmロームブロックを含む。
5	褐色上	中	
6	褐色土	中～弱	径1～3cmロームブロックを少量含む。
7	褐色上	弱	ロームを含む。
8	褐色土	弱	ローム質。
9	褐色土	強弱	径2～3cmロームブロックを含む。
10	褐色土	強弱	粘土を含む。

152P土坑の覆土

No	色	しまり	含有物等
1	暗褐色上(白色味)	中	径1～2mm黄色スコリアを少量含む。
2	暗褐色～黒褐色土	中	褐色土を連続に含む。黄色スコリアをまばらに含む。
3	褐色上	中	暗褐色土がにじむ。
4	褐色土	弱	ローム、径1～3cmロームブロックを含む。
5	褐色土	弱	
6	褐色上	弱	粘土を含む。

153P土坑の覆土

No	色	しまり	含有物等
1	暗褐色土	中	
2	褐色土	中	
3	暗褐色上(黒色味)	中	
4	褐色～暗褐色土	中	
5	暗褐色土	中	
6	褐色上	中	ローム、径1～2cmロームブロックをまばらに含む。
7	暗褐色土・褐色土	中	ロームを含む。
8	褐色土	中	ローム質。
9	褐色土	中	ローム質。
10	褐色土	弱	
11	褐色上	弱	粘土を含む。



第6図 縄文時代・弥生時代遺物実測図

第2表 縄文時代遺物観察表(第6図)

※計測値の()内は復元値、< >内は推定値である。

No	取上げ番号	器種・器形	部位・状態	計測値(mm)	○粘土/石材	●色調	形状・調整・文様などの特徴	その他
1	125P 1	深鉢	胴部	—	○粗砂	●外) 淡褐色、褐色 内) 淡褐色	外) 赤灰文 内) ナデ	写照
2	156P 66	深鉢	胴上部	(R190)	○粗砂、細砂少量	●外) 淡褐色 内) 褐色	外) 縦方向波線 内) ナデ、ミガキ	
3	バネ1-01 23	深鉢	胴部	(上縁径190)、<高さ>	○粗砂多、赤褐色砂子	●淡褐色	外) 斜交文 内) 縦方向ナデ・ミガキ	

第3表 弥生時代遺物観察表(第6図)

No	取上げ番号	器種・器形	部位・状態	計測値(mm)	○粘土/石材	●色調	形状・調整・文様などの特徴	その他
4	7M 4	釜	胴上部 やや膨い	—	○粗砂、赤褐色砂子	●外) 灰色、淡褐色 内) 淡褐色	外) 正し縄文 斜線文 内) ナデ	

り返しが行われる。その穴は1~4の土によって埋まる。但し、平面形態や壁の状態等に、掘り返しを示す顕著な現象を見出すことはできなかった。

2. 遺物 (第6図, 第2表)

3と類似する土器片は確認調査でも出土した。

第2節 弥生時代

遺物として弥生土器片と判断できるものを1点確認したのみで、遺構は確認されなかった。確認調査時にも土器片1点を検出した。該期の要素はごく少量に留まった。

弥生土器片は7M溝跡から出土した(第6図4, 第3表)。この溝跡は2区の128P付近にあったが、近現代の根切溝と判断し、遺構としては取り扱っていない。

第3節 古墳時代

本遺跡のa地点・b地点においては、該期の遺構・遺物が主体であった。d地点においても土師器は多く出土しているが、小細片が多いため、奈良・平安時代のものや中・近世の素焼土器との区別は困難であった。遺構としては、竪穴住居跡1軒と土坑3基を検出した。

1. 遺構 (第7図, 第4表)

1D住居跡

位置 5区で検出した。平面形態 長方形と考えられるが、調査できたのは全体の1/5弱程度と推定する。11M溝跡・12M溝跡・13M溝跡・162P土坑等に切られる。規模 確認したのは南西壁2.7m, 南東壁0.8m, 深さ3~15cmである。壁面 ソフトロームから成る。床面 ソフトロームから成り、平坦で明瞭。一部に硬化面が認められる。標高は21.47~21.52m。壁溝 幅10~25cm, 南コーナーで広がる。深さ床面-6~10cm。柱穴 164Pと166Pの一部が相当する。164P柱穴の規模は、上面1.1×1.05m, 底面0.3×0.26mで深さ60cmである。166P柱穴は、上面0.54×0.5m, 底面0.38×0.32mである。

出土遺物 総数82点。内訳は、土師器75点、砥石片1点、小礫1点、鉄分の塊5点。これらのうち14点を図示した(第8図, 第5表)。

50P土坑

出土遺物 土師器の破片が16点。うち1点を図示した(第8図15, 第5表)。

128P-A土坑

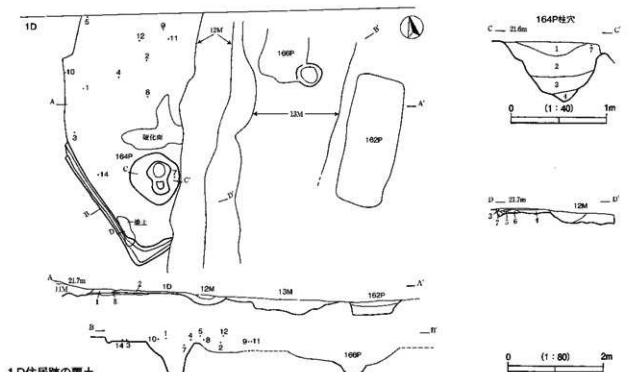
出土遺物 土師器の小細片が72点以上。うち3点を図示した(第8図16~18, 第5表)。特記事項 B土坑との間には7M溝跡(根切溝)があり、両者の切り合い関係はわからない。しかし、B土坑は、本遺跡において多数を占める中世以降のものと判断される。

130P土坑

調査区の端で検出し、一部を調査した。出土遺物 土師器片が20点。うち2点を図示した(第8図19-20, 第5表)。

2. 遺物 (第9図, 第6表)

古墳時代の遺物は、土師器が主体を占めている。甕を中心に坏・壺・高坏・器台が見られる。あまり顕著ではないハケ目が施されるものや器台・高坏等、比較的古式の様相を示すものと、後期の特徴をもつ坏・甕等があり、主体は後者である。古墳時代の遺構ではないか、156P地下式坑からは良好な遺物が得られており、地下式坑の天井部が陥没したため上にあった古墳後期の住居跡が落ち込んだのであろうか。土器以外では石製模造品(双孔円板)2点、石製紡錘車1点が出土した。

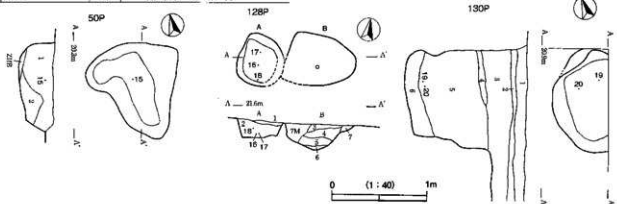


1D住居跡の覆土

No.	色	しまり	含有物等
1	暗褐色土	中	径1~3mm黄色スコリアを含む。
2	白褐色土	中	1より明色。
3	暗褐色土	中	炭化植物を含む。
4	褐色土	中	ロームを含む。
5	赤褐色土	中	同上を含む褐色土。
6	赤褐色土	中	同上を含む褐色土。
7	褐色土	中	ロームを含む。
8	褐色土	弱	ローム質。塚面の一部であろう。

164P柱穴の覆土

No.	色	しまり	含有物等
1	暗褐色土	中	径1~3mm黄色スコリアを多数含む。
2	暗褐色土	中	径1~3mm黄色スコリア、径1~2cmロームブロックをまばらに含む。
3	暗褐色~黒褐色土	中	黄色スコリア、ロームを含む。
4	褐色土	中	ローム質。



第4表 古墳時代遺構(土坑)計測表

遺構No.	位置	平面形態	上面規模(m)	底面形態	底面規模(m)	深さ(m)	長軸方位	遺物
50P	1区	不整三角形	1.07×0.99	L字形	0.82×0.53	0.23~0.36	N-9°-W	16点
128P-A	2区	不整円形	0.57×0.52	不整円形	0.48×0.39	0.19	—	72点以上
130P	2区	円形か	1.19×(0.58)	方形か	0.77×(0.48)	0.87	—	22点

50P土坑の覆土

No.	色	しまり	含有物等
1	暗褐色~黒褐色土	中	炭化材料を含む。
2	暗褐色土	強	粘土ブロックを含む。

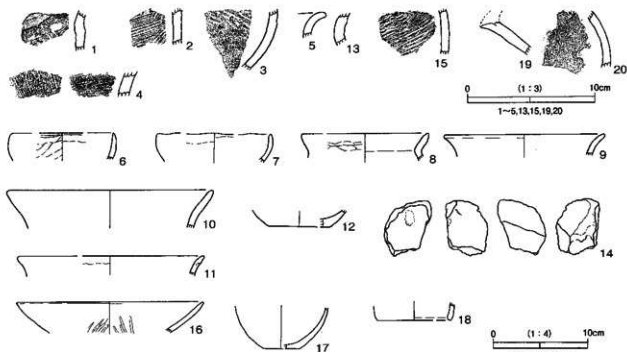
128P-A土坑の覆土

No.	色	しまり	含有物等
1	暗褐色土	中	黄色スコリアを含む。
2	褐色土~暗褐色土	強	ローム、径1cmロームブロックを含む。

130P土坑・2M溝跡の覆土

No.	色	しまり	含有物等
1	—	—	砂石、煎茶場の表土。
2	暗褐色土	強	炭化植物、新卒葬儀試堀に整地されたため。
2M	—	—	—
3	暗褐色土	中	径1~3mm黄色スコリア多数、径1cmロームブロックをまばらに含む。
4	暗褐色土	強	径1~3mm黄色スコリア多数、径1~3cmロームブロックを含む。
130P	—	—	—
5	暗褐色土	弱	径1~3mm黄色スコリア、径1~2cmロームブロックをまばらに含む。
6	暗褐色土	中	径1~2cmロームブロックを含む。

第7図 古墳時代遺構実測図

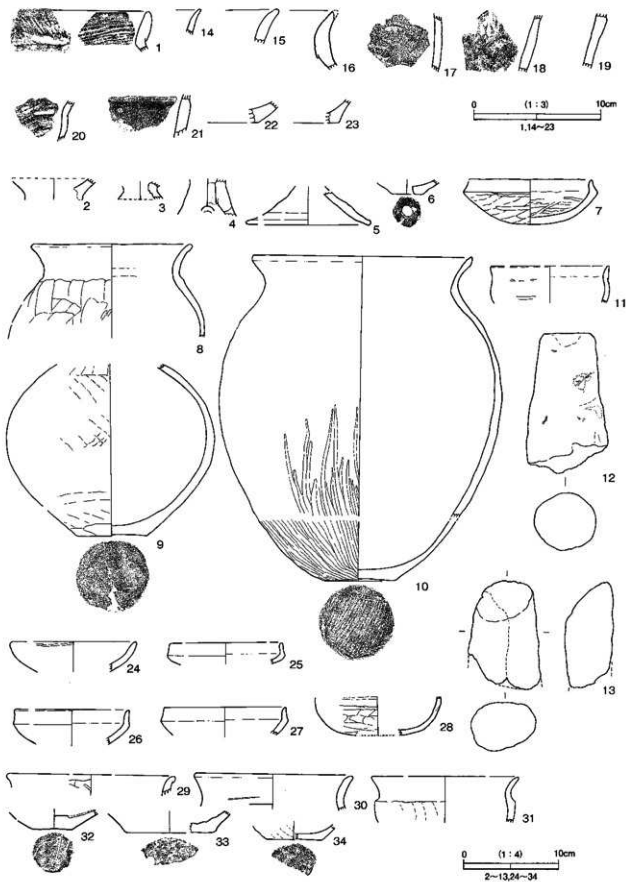


第8図 古墳時代遺構出土遺物実測図

第5表 古墳時代遺構出土遺物観察表 (第8図)

※計測値の()内は仮定値、< >内は残存部である。

No.	取上番号	器種・器形	部位・状態	計測値 (mm)	胎土/土質	着色	装飾・観察・文様などの特徴	その他
1	1D 2	土師器・壺	腹部	—	○細砂 ●外) 赤褐色 内) 淡褐色	外) 縦方向ナデ 内) ナデ		
2	1D 4	土師器・壺	腹部	—	○細砂、粗砂 ●外) 褐色 内) 褐色	外) 斜一箇方向ハケ目 内) ナデ		
3	1D 7	土師器・壺	腹部	—	○細砂、粗砂 ●外) 褐色 内) 黒褐色	外) ハケ目、ミダキ 内) 縦方向ナデ		
4	1D 33	土師器・壺	胴下部	—	○粗砂、細砂 ●外) 褐色 内) 褐色	外) 縦方向ハケ目 内) 斜一箇方向ハケ目		
5	1D 29	土師器・壺	口縁部	<高19>	○細砂、粗砂 ●外) 黒褐色 内) 褐色	外) 縦方向ナデ 内) ナデ、字酒		
6	1D一証	土師器・杯	口縁部	(口径108)、<高39>	○細砂、粗砂 ●外) 褐色、黒褐色 内) 褐色	外) 縦方向ナデ、ヘウ割り 内) 縦方向ナデ		
7	164P 2	土師器・杯	口縁一部分	(口径120)、<高30.5>	○細砂、粗砂 ●外) 褐色、黒褐色 内) 褐色	外) 縦方向ナデ、ヘウ割り 内) 縦方向ナデ、ミダキ		
8	1D 6	土師器・小砂甕	口縁一部分	(口径132)、(底部径118)、<高29>	○細砂、粗砂 ●外) 褐色 内) 褐色	外) 縦方向ナデ、ヘウ割り 内) 縦方向ナデ、ナデ		
9	1D 18	土師器・壺	口縁部	(口径168)、<高22>	○細砂 ●外) 褐色、赤褐色 内) 褐色、赤褐色	外) 縦方向ナデ 内) 斜一箇方向ナデ		
10	1D 13	土師器・壺	口縁一部分	(口径216)、<高40>	○細砂、粗砂 ●外) 褐色、黒褐色 内) 褐色	外) 縦方向ナデ 内) 縦方向ナデ、ミダキ		
11	1D 17	土師器・壺	口縁部	(口径196)、<高21>	○細砂、粗砂 ●外) 褐色 内) 褐色	外) 縦方向ナデ 内) 縦方向ナデ		
12	1D 20	土師器・壺	腹部	(直径66)、<高18>	○粗砂 ●外) 褐色 内) 褐色	外) 縦方向ナデ 内) 素面		
13	1D 40	土師器・壺	腹部	—	○細砂、粗砂 ●外) 褐色 内) 褐色	外) 縦方向ナデ 内) 縦方向ナデ	伝説器種	
14	1D 8	瓦石	破片	39×44×50 111g	○白色系の石 ●灰白色、褐色	1面使用		
15	30P 5	土師器・壺	腹部	—	○細砂、粗砂、シャモットか ●外) 淡褐色 内) 淡褐色	外) ハケ目 内) ナデ		
16	128P 19・20・64・25、31・56、18・24、50	土師器・鉢	口縁一部分 4片	(口径198)、<高33>	○細砂、粗砂少 ●外) 褐色、褐色 内) 褐色、黒褐色	外) 縦方向ナデ、斜方向ミダキ 内) 縦方向ナデ、斜方向ナデ、縦方向ミダキ		
17	128P 37・42、44	土師器・壺	胴下一部分	(直径38)、<高45>	○細砂、粗砂少 ●外) 褐色 内) 褐色	外) ナデ 底外) ヘウ割り後ナデ 内) ナデ、ミダキ		
18	128P 7	土師器・壺	腹部	(直径78)、(口径70)、<高19>	○細砂 ●外) 褐色、褐色 内) 褐色	外) ヘウ割り、ナデ 内) 縦方向ナデ		
19	130P 10	土師器・壺	腹部	—	○細砂、粗砂少 ●赤褐色	外) 縦方向ナデ、ミダキ 内) 縦方向ナデ	古墳前期	
20	130P 9	土師器・壺	胴上部	—	○細砂 ●外) 褐色 内) 褐色	外) ハケ目、ナデ 内) ヘウ割り後ナデ	古墳前期	

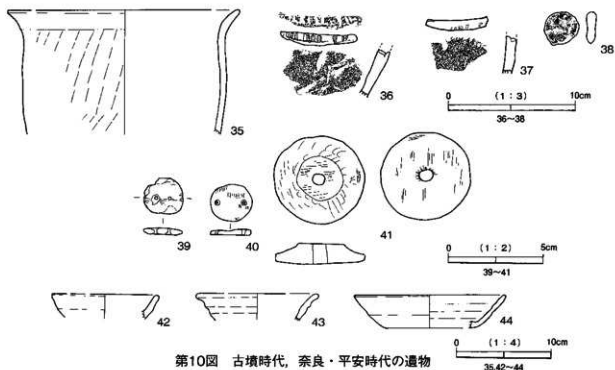


第9図 古墳時代の遺物

第6表 古墳時代遺物観察表 (第9図・第10図)

●新測値の()内は復元値、< >内は推定値である。

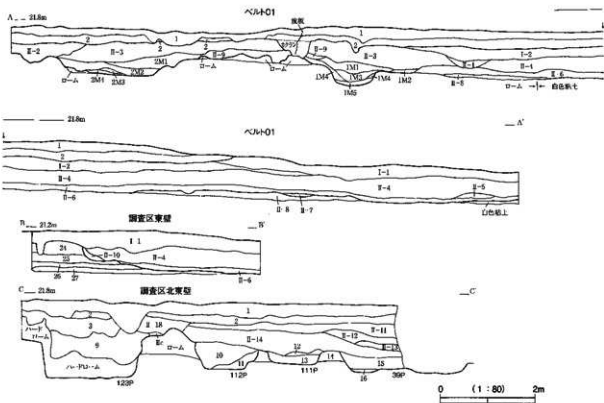
No	取上げ番号	遺種・形状	部位・状態	新測値 (mm)	○土質/石質 ●色調	形状・用途などの特徴	その他
1	136 P 7	土師器・壺	口縁部	<高32>	○褐色、黒褐色 ●外) 淡褐色 内) 淡褐色	外) 斜方向ナメ、縦方向ヘウ張り 内) 縦方向ナメ、ハタテ・ヘウ張り	古墳前期
2	106 P 1	土師器・高坏	底部の残部	(高166)	○褐色 ●外) 褐色 内) 淡褐色	ナメ	
3	157 P	土師器・台	胴部の基部	(直径30), <高17>	○褐色 ●外) 赤褐色 ●内) 暗褐色、黒褐色、暗赤褐色	表面彫り	
4	163 P	土師器・腹直立	胴部の基部	(1) 直径27, (2) 直径50, <高27>, <高13>	○褐色少 ●外) 褐色、褐色	表面彫り 外) 縦方向ミダギ 内) 縦・斜方向ナメ	
5	8 M 3 ~ 6 3区 10	土師器・高坏	胴部	(直径130), <高41>	○褐色、暗褐色 ●外) 褐色、暗褐色 ●内) 新赤褐色、新褐色	表面彫り	
6	173 P 1	土師器・瓶	底部	直径30~32, 孔径10~11, <高13>	○褐色少 ●外) 褐色、淡褐色 内) 褐色、暗褐色	表面彫り 微凸面穿孔、底外) ヘウ張り 内) 縦方向ヘウ張り、内) ヘウ張りナメ	
7	156 P 70 ~ 89	土師器・杯	3/4	(口径128), 丸底、溝付	○褐色、暗褐色 ●外) 褐色、黒褐色 ●内) 暗褐色、褐色、黒褐色	表面彫り 外) 縦方向ナメ、ミダギ、斜方向ヘウ張り 内) ナメ、ミダギ	古墳後期
8	156 P 24 ~	土師器・壺	口縁一部	口径105~167, <高99>	○褐色、暗褐色 ●外) 褐色、暗褐色 ●内) 褐色、淡褐色 内) 褐色、暗褐色	外) 縦方向ナメ、縦・斜方向ヘウ張り 内) 縦方向ナメ	同一個体と思われるが、器のたがひ、胎形が一致しない。
9	156 P 1・多数	土師器・壺	胴上一定部 や平たい	(最大径21), 底径7, <高181>	○褐色、暗褐色 ●外) 新褐色、褐色、淡赤褐色 ●内) 暗褐色、褐色、黒褐色	外) 縦・斜方向ヘウ張り 内) 縦方向ナメ	胎形が一致しない。
10	156 P 4・5 20・25・30・31・35 38~46~50・52	土師器・壺	胴上一定部	1区252, 2区最大径300, <高275>	○褐色、石灰質多、黒砂 ●外) 淡褐色、褐色、暗褐色、淡赤褐色 ●内) 淡褐色、黒褐色、暗褐色	外) 胴上一定部縁上方向ナメ、胴下一半縦方向ミダギ 内) 縦方向ナメ	同一個体であるが、胎形が一致して示した。
	156 P 36・62・81	土師器・壺	胴部	底径78, <高61>	○褐色、石灰質多、黒砂 ●外) 淡褐色、暗褐色 内) 淡褐色	底外) ミダギ 外) 縦・斜方向ミダギ 内) ナメ	
11	156 P 51	土師器・小壺	胴上一定部	(口径25), <高40>	○褐色、暗褐色 ●外) 褐色、暗褐色 ●内) 暗褐色、暗褐色	外) 縦・斜方向ナメ、ミダギ、斜方向ナメ、輪紋状 内) 縦方向ナメ	
12	156 P 54	土師器・壺	底径	上部4×5.1, 下部<58>×80, <高107>, 600.2g	○褐色、赤褐色 ●外) 暗褐色、淡褐色、暗褐色		ナチュラールコート含浸
13	156 P 35	土師器・壺	底径	上部<32>, 下部<16.6>, <高114.5>, 205.2g	○褐色少 ●外) 褐色、淡褐色		ナチュラールコート含浸
14	11 P 1	土師器・壺	胴部	<高30>	○褐色 ●外) 淡褐色	縦方向ナメ	
15	11 P 11	土師器・壺	口縁一部	<高27>	○褐色 ●外) 淡褐色	縦方向ナメ	
16	165 P 2	土師器・壺	口縁一部	—	○褐色、赤褐色 ●外) 淡褐色	外) 縦方向ナメ、斜方向ヘウ張り 内) 縦方向ナメ	
17	126 P 1	土師器・壺	胴部	—	○褐色、暗褐色 ●外) 褐色	ヘウ張りナメ	
18	10 P 1	土師器・壺	胴部	—	○褐色 ●外) 淡褐色、暗褐色 内) 褐色、暗褐色	外) ヘウ張り 内) 縦方向ナメ	
19	63 P 1	土師器・壺	胴部	—	○褐色、暗褐色 ●外) 褐色 内) 褐色	外) 縦方向淡褐色、ヘウ張りナメ 内) ナメ、ミダギ	
20	1 P 1	土師器・壺	胴部	—	○褐色 ●外) 淡褐色、淡赤褐色	外) 縦方向ナメ、縦・斜方向ナメ 内) 縦方向ナメ	
21	100 P 1	土師器・壺	胴上一定部	—	○褐色、暗褐色 ●外) 新褐色、淡赤褐色 ●内) 淡褐色	外) 縦方向ナメ、ヘウ張りナメ、ミダギ 内) ナメ、ミダギ	
22	10 P	土師器・壺	底径	—	○褐色、暗褐色 ●外) 淡褐色、暗褐色 ●内) 淡褐色	外) 壺多 内) ナメ	
23	18 P 3	土師器・壺	底径	<高18>	○褐色、暗褐色 ●外) 新褐色 ●内) 新褐色	外) ヘウ張り 内) ナメ、淡褐色	
24	23 P 1	土師器・杯	胴上一定部	(口径130), <高32>	○褐色、暗褐色 ●外) 新褐色 ●内) 新褐色	外) 縦方向ミダギ、ナメ 内) ナメ、ミダギ	
25	57 P 1	土師器・杯	胴上一定部	(口径120), <高23>	○褐色、暗褐色 ●外) 新褐色 ●内) 新褐色	外) 縦方向ナメ 内) 縦方向ミダギ、ナメ	
26	14M 9	土師器・杯	胴上一定部	(口径119), 丸底、溝付	○褐色、暗褐色 ●外) 新褐色、淡赤褐色 ●内) 新褐色、淡赤褐色	外) 縦方向ナメ、ミダギ 内) 縦方向ミダギ	古墳後期
27	13M	土師器・杯	胴上一定部	(口径128), <高30>	○褐色、暗褐色 ●外) 新褐色、淡赤褐色 ●内) 新褐色	外) 縦方向ナメ、底部ヘウ張り 内) 縦方向ミダギ	古墳後期
28	131 P 12	土師器・杯	体上一定部 付付	(最大径12), <高40>	○褐色、暗褐色 ●外) 新褐色 ●内) 新褐色	外) 縦方向ナメ、ヘウ張り 内) 縦方向ナメ、ミダギ	
29	123 P 5	土師器・壺	口縁部	(口径176), <高21>	○褐色 ●外) 淡褐色	外) 縦方向ナメ、ヘウ張り、ミダギ 内) 縦方向ナメ	
30	14M 3	土師器・壺	胴上一定部	(口径166), (底部径146) <高37>	○褐色、赤褐色 ●外) 淡褐色	縦方向ナメ	
31	2 M 58	土師器・小壺	胴上一定部	(口径154), <高48>	○褐色 ●外) 淡褐色、褐色、淡赤褐色	外) 縦方向ナメ、底あり、縦方向ヘウ張り 内) 縦方向ナメ、底あり、ミダギ	
32	9M 20・19M 20	土師器・壺	底径	直径40, <高22>	○褐色、赤褐色 ●外) 淡褐色、淡赤褐色、暗褐色	外) ヘウ張り、ナメ、底あり 内) ナメ、底あり	
33	9 M 4	土師器・壺	底径 や平たい	(直径90), <高23>	○褐色、暗褐色 ●外) 新褐色、淡赤褐色 ●内) 淡褐色	外) ナメ 底外) ナメ 内) 底あり	
34	2 M 63	土師器・壺	底径	(直径56), <高17>	○褐色多、赤褐色 ●外) 暗褐色、淡褐色 内) 暗褐色	底外) ヘウ張り 外) 斜方向ヘウ張り 内) ナメ、平	
35	163 P 18	土師器・瓶	口縁一部	(口径344), <高132>	○褐色 ●外) 新褐色、褐色 内) 新褐色	外) 縦方向ナメ、縦・斜方向ヘウ張り 内) 縦方向ナメ、縦方向ナメ、ミダギ	
36	163 P 7	土師器・壺	胴下部	—	○褐色、暗褐色 ●外) 新褐色 ●内) 新褐色	胴口に溝あり。土器作成時に粘土質土が混入し、やいように器壁につけ込まれた。 外) 縦方向ナメ、内) 縦方向ナメ	
37	163 P	土師器・壺	胴部	—	○褐色、暗褐色 ●外) 新褐色 ●内) 新褐色	胴口に溝あり。土器作成時に粘土質土が混入し、やいように器壁につけ込まれた。 外) 縦方向ナメ、内) 縦方向ナメ	
38	6 A ~ 10 30	土師器・土師器片	一底欠 多	27×25×6 5.1g	○褐色、暗褐色 ●外) 新褐色 ●内) 新褐色	新赤褐色あり	
39	155 P	土師器・壺	底径	30.3×19×3.3 2.7g	○褐色 ●外) 淡褐色	新赤褐色あり	
40	6 A ~ 10 1	土師器・壺	底径	22×20×3, 孔径1.4 4.1g	○褐色 ●外) 淡褐色、褐色	新赤褐色あり	
41	3 K 1	土師器・壺	底径	47.5×47.1 34.3g	○褐色 ●外) 淡褐色	新赤褐色あり	



第10図 古墳時代、奈良・平安時代の遺物

第7表 奈良・平安時代遺物観察表 (第10図)

No	取上番号	器種・形状	部位・状態	寸法 (mm)	○胎土・石材 ●色調	形状・調整・文様などの特徴	その他
42	134P 1	土埴器・杯	口縁部	(J1層112), <高25>	○細砂 ●灰褐色	ロクロ成形 外) 横方向ナデ 内) ナデ, ミガキ	
43	ベルト01 20	土埴器・杯	口縁部	(L1層130), <高27>	○細砂多, 本褐色粒子 ●灰褐色	ロクロ成形 横方向ナデ	
44	111M 5	土埴器・杯	口縁部	(J1層149), (底径90), <高36>	○細砂, 黄砂細片 ●外) 灰色, 灰白色 内) 灰褐色	ロクロ成形 横方向ナデ	



第11図 ベルト01・調査区東壁・調査区北壁の土層

第4節 奈良・平安時代

ロクロ成形の坏などが該当すると判断し、3点を図示した(第10図42~44, 第7表)。

第5節 中・近世

d地点においては、中世の遺構・遺物を検出できたことが特筆される成果である。遺構としては、台地整形遺構、地下式坑9基、大型土坑3基、特殊遺構3基、土坑168基、溝状遺構2基・溝跡11条であり、遺物は板破片、瓦質土器、陶器等が出土している。

1. 台地整形遺構とd地点の土層

d地点における台地整形遺構は、確認調査時、標高20m以上の台地上に当たる本地点において、表土下の厚い暗褐色土層の直下に、ローム層を挟むことなく白色粘土層に急変するということで認識された。調査区の北半に当たる駐車場として利用されている部分ではローム層を検出したので、駐車場より一段低くなっている畑地が粘土層まで削られた部分と予想された。現況の段差が中世の地形改変に起因する可能性があるということになる。確認調査の出土遺物は67点で、中世と考えられる瓦質土器・素焼土器・常滑の甕やすり鉢などが含まれていた。本調査では、この遺構の状況の一端を知るためにベルトを設定し、また要所に土層観察面を設けて土層の堆積状況を記録した。

ベルト01及び調査区東壁(第4図, 第11図)

ベルト01は、台地整形遺構の土層を記録するために横断するように設定し、これに直交する土層観察面も設定した。重機による1回目の表土除去後にこれらの土層調査を行う計画であったが、ベルト01に直交する土層断面は、丁度2M~3Mの覆土内になってしまい、この位置では目的とする土層の情報が得られないと判断した。廃土を場内処理するため廃土置場が制約され、ベルト位置を変えて表土除去を続けることは、1回目の表土除去時には不可能であった。その後も調査の進捗との関係で、別の位置に断面を設定することはできなかった。

また、調査区東端にローム層の残存している土層と消失している土層の段差部分が観察できたので、「調査区東壁土層」として記録した。

これらの土層の観察から、粘土層は標高20.4m以下になることが判明した。基本的に表土の下に厚い暗褐色土層(黒色味が強く、黒褐色に見える場合もある)が堆積している。この暗褐色土をⅡ層とし、含有物等の特徴の違いで枝番号を付けた。対応関係がわからず、かなり細分してしまったが、これらは台地整形遺構の覆土と捉えられるものである。遺構内覆土として時間をかけて掘り下げる必要があったが、十分な時間をとることができなかった。

なお、ベルト01からの出土遺物は総数179点であった。内訳は、土師器・素焼土器135点、素焼・瓦質土器3点、かわらけ1点、陶磁器類18点、須臾器7点、縄文土器1点、石製模造品1点、鉄製品3点、鉄滓2点、小礫6点等である。縄文土器・石製模造品等を図示した。

調査区東壁土層ではⅠ-1層から9点が出土した。内訳は、土師器4点、陶磁器2点、小礫2点等。Ⅱ-4層からは増減した土師器小片2点が出土した。

調査区北東壁(第4図, 第11図)

調査区北東端においてもローム層の残存している土層と、消失している土層の境界が観察できたので、記録した。しかしここは方形土坑密集地帯であり、段差のようなものが存在したのかどうか判然としない。

遺物はⅡ-11層から土師器1点、Ⅱ-14層からハケ目のある土師器甕1点が出土した。

3区北壁(第4図, 第12図)

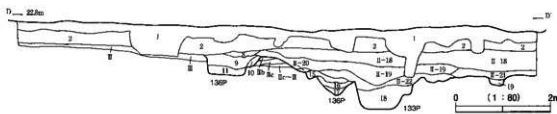
調査区の西端の飛び地は3区と呼称した。その北壁の土層を記録した。ここではⅡb層(新期富士テフラ層)と考えられる褐色土層を検出した。その標高は21.9m前後であり、標高21.7m前後でソフトローム層に

ベルト01及び調査区東壁土層

No.	層名	色	調査家	含有物等
1	残灰土			紅土塊の碎り、焼灰を含む。
2	灰吹	75YR3/3	25-26	砕石層下の硬灰層、層1-3mm黄色スコリア多量、焼土粒子・炭化材片を含む。
3	1-1 内穴土層	75YR3/3	11-20	焼土ブロックを含む。
4	1-2 内穴土	75YR3/8	16-18	層1-3mm黄色スコリアまばら、焼土粒子・炭化材片を含む。
5	1-3	75YR3/3・3/2	12-16	層1-3mm黄色スコリア多量、炭土粒子・炭化材片を含む。
6	1-4	75YR3/3・やや灰色味	19-25	層3-8mmロームブロック、黄色スコリア多量、焼土粒子を含む。
7	1-5	75YR3/3	17-21	層1-5mm黄色スコリアを含む。
8	1-6	75YR3/3・3/2にじむ	13-17	層1-3mm黄色スコリアをまばらに含む。
9	1-7	75YR3/3	16-20	層1-3mm黄色スコリアをまばらに含む。
10	1-8	75YR3/3	13-18	層1-3mm黄色スコリアをまばらに含む、焼土層中にじむ。
11	1-9	黄褐色土・75YR7/1を多量含む層	13-18	層1-3mm黄色スコリアをまばら、焼土多量含む。明暗褐色土・白色粘土。
12	1-10	75YR4/3・4/4	17	ローム塊。
13	1-11	75YR3/8	19-22	層1-5mm黄色スコリア多量、層1-5mmロームブロック多量含む。
14	1M壁土1	75YR3/3	15-17	層1-5mm黄色スコリア多量、層1-2mmロームブロックを含む。
15	1M壁土2	75YR3/3	13-17	層1-5mm黄色スコリアをまばらに含む。
16	1M壁土3	75YR3/3	15-18	層1-5mm黄色スコリアをまばらに含む。
17	1M壁土4	75YR4/3・4/4	13-14	層1-3mmロームブロックを多量含む。
18	1M壁土5	75YR3/3	16-17	粘土・黄色スコリアをまばらに含む。
19	2M壁土1	75YR3/3	16-20	層1-5mm黄色スコリア多量、層1-3mmロームブロックを多量含む。
20	2M壁土2	75YR3/3・4/3にじむ	16-18	層1-5mm黄色スコリア多量、層1-5mmロームブロックを含む。
21	2M壁土3	75YR4/3・4/4・3/3にじむ	21-26	ローム塊。
22	2M壁土4	75YR3/3・4/3にじむ	14-17	層1-5mm黄色スコリア多量を含む、ロームにじむ。
23	1-10	75YR3/3・4/3・4/4	12-15	黄色スコリア・ロームブロックを多量含む。
24	ローム層	75YR4/4	15-23	褐色・灰色・灰色各スコリアにじむ。
25	ローム層	75YR5/4	18-25	黒色スコリア少量含む。
26	粘土への硬質層	75YR6/4	21-22	白粘土中に褐色土がにじむ。
27	粘土層	75YR7/1	20-25	明暗褐色土・白色粘土。

調査区北東壁土層

No.	層名	色	しまり	含有物等
1	残灰土	75YR4/3	中	紅土塊の碎り、焼灰を含む。
2	灰吹	75YR3/3	中	砕石層下の硬灰層、層1-3mm黄色スコリアを含む。
3	残灰土	75YR3/3	中	黄色スコリアを含む、層1-10mmロームブロックをまばらに含む。
4	1-11	75YR3/3	中	黄色スコリアを含む、層1-5mmロームブロックをまばらに含む、土層にあり。
5	1-12	75YR3/3	中	黄色スコリア・層1-5mmロームブロックを多量含む。
6	1-13	75YR3/2	中	黄色スコリア・ロームブロックを多量含む。
7	1-14	75YR3/8	中	黄色スコリアを多量、層1-3mmロームブロックをまばらに含む。
8	1-15	75YR4/3・4/4	中	ローム層。
9	121P壁土	75YR4/3・4/4・3/2	中	褐色土・ローム・黒褐色土が混じり合う。
10	112P壁土	75YR3/3	中	層1-5mmロームブロック・層1-3mm粘土ブロックを含む。
11	112P壁土	75YR3/3・7/1	中	褐色土と明暗褐色粘土が混じり合う。
12		75YR3/2・3/3	中	褐色土・暗褐色土が混じり合う。
13	111P壁土	75YR4/3	中	粘土・黄色スコリアを含む。
14	遺構層上	75YR4/3	中	層1-3mmロームブロック（特に1cmを多量に）含む。
15	39P壁土	75YR4/4・4/3	中	層1-10mmロームブロックを多量含む。
16	39P壁土	75YR3/3・4/3	中	褐色土・層1-5mmロームブロックを多量含む。



第12図 3区北壁の土層

3区北壁土層

No.	層名	色	しまり	含有物等
1	残灰土			紅土塊の碎り、焼灰を含む。
2	1-1	75YR3/3	中	砕石層下の硬灰層、層1-3mm黄色スコリアをまばらに含む。
3	1-18	75YR3/3	中	層1-3mm黄色スコリア多量、層1-2mmロームブロックをまばらに含む。
4	1-19	75YR3/3・3/2	中	層1-5mm黄色スコリアを多量、層1-3mmロームブロックを含む。
5	1-2	75YR4/3	中	新築土層下層。
6	1-3	75YR4/3	中	ローム層。
7	1-4	75YR4/3・4/4	中	ローム層。
8	120P壁土1	75YR3/3	中	硬質層・黄色スコリア、層1mmロームブロックを含む。
9	120P壁土2	75YR3/3	中	黄色スコリア、層1-2mmロームブロックをまばらに含む。
10	120P壁土3	75YR4/3	中	褐色土。
11	120P壁土4	75YR3/3	中	黄色スコリア、層3-4mmロームブロックを含む。
12	1-20	75YR3/3・4/3	中	黄色スコリア、層1-3mmロームブロックを含む。
13	1-21	75YR3/3・3/2	中	層1-2mm黄色スコリアを含む。
14	1-22	75YR3/3	中	黄色スコリア・層1-5mmロームブロックを多量含む。
15	126P壁土1	75YR3/3・3/2	中	黄色スコリアを多量、層1-5mmロームブロックを含む。
16	126P壁土2	75YR3/3	中	黄色スコリア、ロームを含む。
17	126P壁土3	75YR4/3・4/4	中	ローム層。
18	121P壁土	75YR3/3	中	褐色土・層1-10mmロームブロックを含む。
19		75YR4/4・3/3	中	ローム層、層1-3mmロームブロックを含む。

至る。ソフトローム面は、東側の粘土面の標高20.4mに比べると1.3mほど高くなっている。

2. 地下式坑（第13図～第14図、第8表）

9基である。いずれも平面形が「凸」字形の、出入口が明確な遺構である。すべて天井部は崩落していた。

11P土坑

調査区の端にあり、出入口付近のみを調査した。出土遺物 31点。内訳は、土師器片28点、陶器小片1点、焼成粘土塊1点、小礫1点である。

131P土坑

本遺構の調査は、トレンチャーの痕跡が多数並ぶ中に径2mほどの範囲で粘土が検出されたのが発端であった。出土遺物 119点。内訳は、土師器片86点、瓦質土器1点、陶器片6点、磁器片10点、土製品1点、鉄釘3点、小礫12点である。瓦質土器の火鉢等を図示した（第23図1～4、第13表）。

156P土坑

本調査範囲外に及んだ部分は調査できなかった。プランは不明瞭であった。古墳時代の遺物が多数出土した。出土遺物 161点。内訳は、土師器片149点、支脚4点、陶器片1点、縄文土器1点、須恵器2点、焼成粘土塊1点、鉄製品1点、礫2点である。

157P土坑

やはりプラン不明瞭であった。出土遺物 17点。内訳は、土師器片14点、陶器片2点、磁器1点である。底面から出土した常滑の甕の口縁部を図示した（第23図5、第13表）。

158P土坑

出土遺物 土師器片9点。

159P土坑

出土遺物 土師器片3点。

161P-A・B土坑

161Pもプランが不明瞭であり、2基が並んでいると把握するまで時間を要してしまった。出土遺物 土師器片19点。

172P土坑

一部は調査できなかった。出土遺物 9点出土。内訳は陶器片1点、土師器片8点である。陶器片を図示した（第23図6、第13表）。

3. 大型土坑（第14図、第9表）

地下式坑と同規模の土坑が3基ある。明確ではないが、出入りしやすいような施設が設けられている。

2M-P1土坑

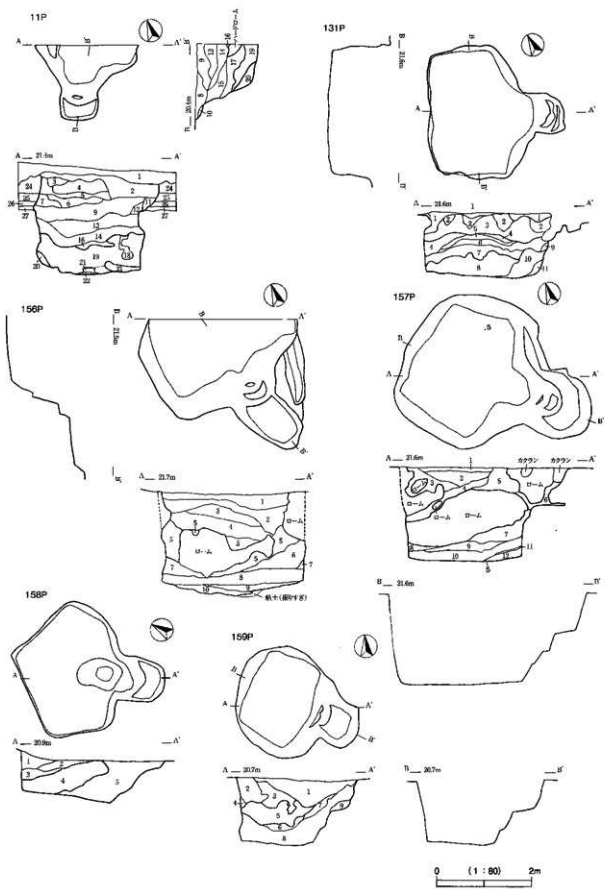
2M溝跡によって切られる遺構と判断した。出土遺物 37点。内訳は、陶器1点、土師器片24点、焼成粘土塊6点、砥石1点、石製品か1点、鉄製品1点、小礫2点等である。陶器等5点を図示した（第23図7～11、第13表）。

155P土坑

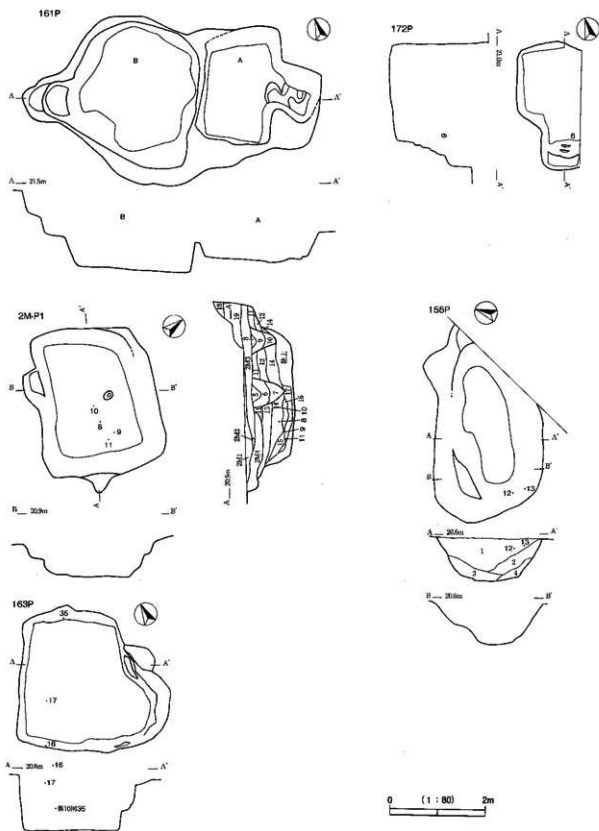
11M溝跡との切合い関係はわからなかった。出土遺物 23点。内訳は、陶磁器類4点、土師器8点、須恵器1点、焼成粘土塊1点、石製模造品1点、鉄製品4点、鉄滓1点、小礫3点である。陶器のすり鉢等を図示した（第23図12・13、第13表）。

163P土坑

プランが不明瞭であった。攪乱によって形が崩れている可能性がある。出土遺物 155点。内訳は、陶磁器類5点、素焼土器1点、土師器136点、須恵器1点、瓦1点、泥面子か1点、焼成粘土塊2点、鉄製品2点、



第13図 地下式坑実測図



第14図 地下式坑・大型土坑実測図

第8表 中・近世遺構(地下式坑)計測表

遺構No	位置	上面規模(m)	底面形態	底面規模(m)	深さ(m)	長軸方位	遺物
11P	1区	<1.62×2.16>		<0.84×1.9>	2.03	N-24°-E	31点
131P	2区	2.8×2.8	長方形	2.14×2.56	1.11	N-66°-W	119点
156P	5区	<4.0×3.3>		<2.79×1.76>	2.14	N-18°-W	161点
157P	5区	4.17×3.2	台形	2.45×1.68	1.97	N-51°-W	17点
158P	5区	3.25×2.8	五角形	2.0×2.67	0.8	N-18°-W	9点
159P	5区	2.72×2.2	長方形	1.77×1.1	1.36	N-60°-W	3点
161P-A	5区	2.5×2.9	台形	2.1×1.14	1.44	N-65°-W	2点
161P-B	5区	3.7×3.5	六角形	2.65×2.44	1.6	N-75°-W	5点
172P	5区	2.72×<1.2>		1.6×<1.04>	0.8	N-18°-E	9点

11P土坑の覆土

No	色	しまり	含有物等
1	覆褐色土	粗	灰土、薪炭屑を含む。
2	覆褐色土	中	薄層、ロームブロックを含む。
3	褐色土	中	厚1-3cm黄色スクリヤを多数含む。
4	褐色土	中	厚3-10cmロームブロックを多数含む。木屑の混入が、
5	褐色土	中	黄色スクリヤ、ロームブロックを含む。
6	褐色土	中	ロームブロックを含む。
7	褐色土・褐色土	中	黄色スクリヤを含む。
8	褐色土	中	黄色スクリヤ、ロームブロックを多数含む。
9	褐色土・褐色土	中	黄色スクリヤ、ロームブロックを多数含む。薪炭屑を含む。
10	褐色土	細	粘土を含む。
11	褐色土	粗	ローム、ロームブロックを含む。
12	褐色土・褐色土	中	黄色スクリヤ、ロームブロックを含む。
13	褐色土	中	黄色スクリヤ、ロームブロックをまばらに含む。
14	褐色土	中	黄色スクリヤ、ロームブロックをまばらに含む。
15	褐色土	中	黄色スクリヤ、ロームブロックをまばらに含む。
16	褐色土・褐色土	やや粗	ロームブロックをまばらに含む。
17	褐色土	粗	バーブローム、薪炭したもの。
18	褐色土	粗	粘土を含む。
19	褐色土	粗	粘土を含む。ロームブロックを含む。
20	褐色土	粗	粘土を含む。
21	ローム層		
22	ローム層		
23	坑上への覆層		ベルト01及び敷設土層に対応
27	坑上層		

131P土坑の覆土

No	色	しまり	含有物等
1	褐色土・褐色土	中	トレンチャー線、黄色スクリヤを含む。
2	褐色土	中	トレンチャー線、ローム、薄層ブロックを多数含む。
3	褐色土	中	薄層ブロック、ロームブロックを含む。
4	褐色土・褐色土	中	ローム、ロームブロックを多数含む。灰土の混入が、
5	褐色土	中	ローム、ロームブロックを多数含む。灰土の混入が、
6	褐色土	粗	厚3cm黄色スクリヤ、厚1-2cmロームブロックを含む。
7	褐色土	中	灰土、ロームを含む。
8	褐色土	中	ローム、灰土の混入を含む。
9	褐色土	粗	粘土、ロームを含む。腐葉土を含む。
10	褐色土	粗	粘土、ロームを含む。腐葉土を含む。
11	褐色土	粗	厚1-2cmロームブロック、粘土を含む。

158P土坑の覆土

No	色	しまり	含有物等
1	褐色土	中	厚2-4cmロームブロック、黄色スクリヤを多数含む。
2	褐色土	中	厚1-3cm黄色スクリヤを多数含む。
3	褐色土	中	厚2-10cmロームブロックを多数含む。
4	褐色土	中	厚1-4cm黄色スクリヤ、厚1-2cmロームブロックを含む。

第9表 中・近世遺構(大型土坑)計測表

遺構No	位置	平面形態	上面規模(m)	底面形態	底面規模(m)	深さ(m)	長軸方位	遺物
2M-P1	1区	長方形	3.1×2.5	長方形	2.38×1.6	1.04	N-59°-W	37点
155P	5区	隅丸長方形	(4.13)×2.24	長楕円形	2.51×0.96	1.8	N-57°-E	23点
163P	5区		3.2×3.0	長方形	2.6×2.0	0.8	N-33°-E	155点

2M溝跡及び2M-P1土坑の覆土

No	色	しまり	含有物等
2M			
1	褐色土(若干明るい)	中	黄色スクリヤを含む。
2	褐色土	中	黄色スクリヤを含む。1より少ない。
3	褐色土	中	黄色スクリヤを含む。
4	褐色土・褐色土	中	黄色スクリヤ、粘土を含む。
ビド			
1	褐色土	中	黄色スクリヤを多数含む。2よりより多い。
2	褐色土	中	粘土ブロック、ロームブロックを含む。
3	褐色土	中	ロームブロックを含む。
4	褐色土	中	厚1cm黄色スクリヤを含む。
5	褐色土	中	粘土ブロック、ロームブロックをまばらに含む。
6	褐色土	中	粘土ブロック、ロームブロックをまばらに含む。
7	褐色土	中	粘土ブロック、ロームブロックをまばらに含む。
8	褐色土	中	粘土ブロック、ロームブロックをまばらに含む。
9	褐色土	中	粘土ブロック、ロームブロックをまばらに含む。
10	褐色土	中	粘土ブロック、ロームブロックをまばらに含む。
11	褐色土	中	粘土ブロックを少量含む。

156P土坑の覆土

No	色	しまり	含有物等
1	褐色土・褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
2	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
3	褐色土	粗	厚1-3cm黄色スクリヤを含む。
4	褐色土	粗	厚1-3cm黄色スクリヤを含む。
5	褐色土・褐色土	粗	厚1-3cm黄色スクリヤを含む。
6	褐色土	粗	厚1-3cm黄色スクリヤを含む。
7	褐色土	粗	厚1-3cm黄色スクリヤを含む。
8	褐色土	粗	厚1-3cm黄色スクリヤを含む。
9	褐色土	粗	厚1-3cm黄色スクリヤを含む。
10	褐色土	粗	厚1-3cm黄色スクリヤを含む。

157P土坑の覆土

No	色	しまり	含有物等
1	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
2	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
3	褐色土・褐色土	やや粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
4	褐色土	やや粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
5	褐色土・褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
6	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
7	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
8	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
9	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
10	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
11	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
12	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。

159P土坑の覆土

No	色	しまり	含有物等
1	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
2	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
3	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
4	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
5	褐色土・褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
6	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
7	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
8	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。
9	褐色土	粗	厚1-2cm黄色スクリヤを多数含む。灰土を含む。

鉄滓1点、中礫1点、小礫4点である。焼成粘土塊等を図示した（第23図14～17、第13表）。

4. 特殊遺構（第15図、第10表）

浅い窪みと土坑から成る1 I・1 P・105 Pの3基を特殊遺構とした。

1 I 遺構

当初は、1 M溝跡と2 M溝跡とが合流する付近にある不整形な粘土のプランとして認識した。掘り上げると、底面に土坑を伴う不整形な浅い整穴状遺構となった。その底面上に褐色土などを挟んで粘土が覆っていたのである。なお4 P・5 P・6 Pは粘土を切って掘られており、本遺構に伴うものではないようである。また1 Mは溝跡ではなくなったため溝が交差する地点付近という認識は改めた。出土遺物 土師器甕の破片1点。

1 P 遺構

当初は方形プランの土坑と予想したが、浅い窪みと1基の小土坑からなる遺構となった。出土遺物 土師器2点。

105 P 遺構

不整形の浅い窪みと1基の小土坑からなる遺構となった。焼土や小土坑内に灰や焼成粘土塊が認められ、他遺構とは異なる様相を示した。出土遺物 15点。土師器片2点、焼成粘土塊、炭化材料等である。

5. 2区北部の土坑群（第15図・第16図、第10表）

11 Pの西側には方形土坑などが集中する。この中には、1 M-Cのように人歯が出土したものがあり、墓坑群である可能性が考えられる。なお、これらの土坑に接したり近接する小土坑も合わせてここに掲載する。また1区に属する1 M-A・Bと10 Pも、類似するものとしてここに掲載する。合計30基である。

30 P 土坑

覆土 暗褐色土。径1～3 cmのロームブロック・粘土・黄色スコリアをまばらに含む。

37 P 土坑

覆土 暗褐色土。粘土ブロック、黄色スコリアを含む。

38 P 土坑

覆土 暗褐色～褐色土。黄色スコリア、径3～8 cmのロームブロックをまばらに含む。

39 P 土坑

4基の土坑が重なっていると判断した。覆土 調査区北東壁土層に記載がある。

40 P 土坑

2基の土坑が接している。覆土 A 暗褐色土。黄色スコリア、径1 cmのロームブロックをごくまばらに、粘土を少量含む。B 暗褐色土。しまりやや弱。

115 P 土坑

特記事項 西壁以外の三辺がオーバーハングする特異な形態で、本地点では唯一である。

116 P 土坑

覆土 暗褐色土。黄色スコリア、径1～2 cmのロームブロックを含む。しまり弱。

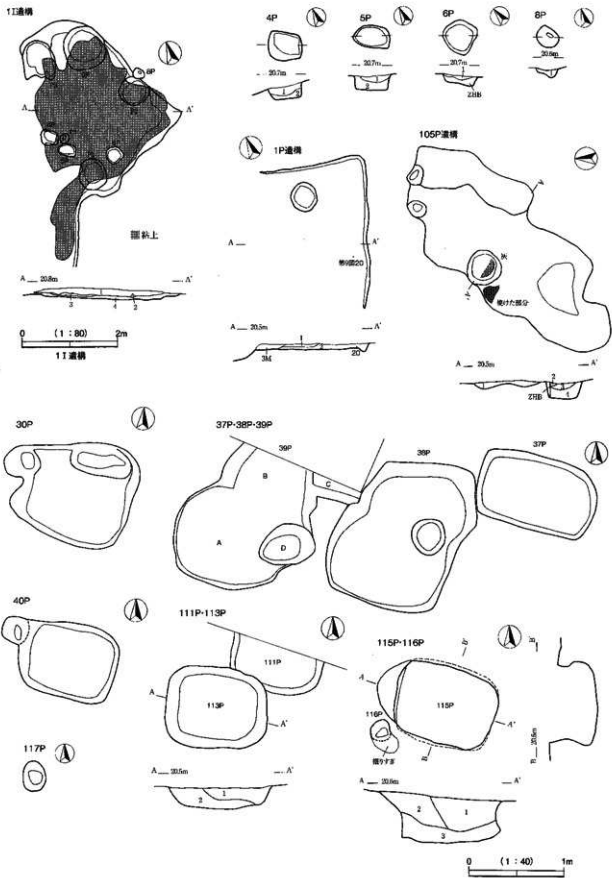
117 P 土坑

覆土 暗褐色土・褐色土・径1～2 cmのロームブロックが混じり合う。

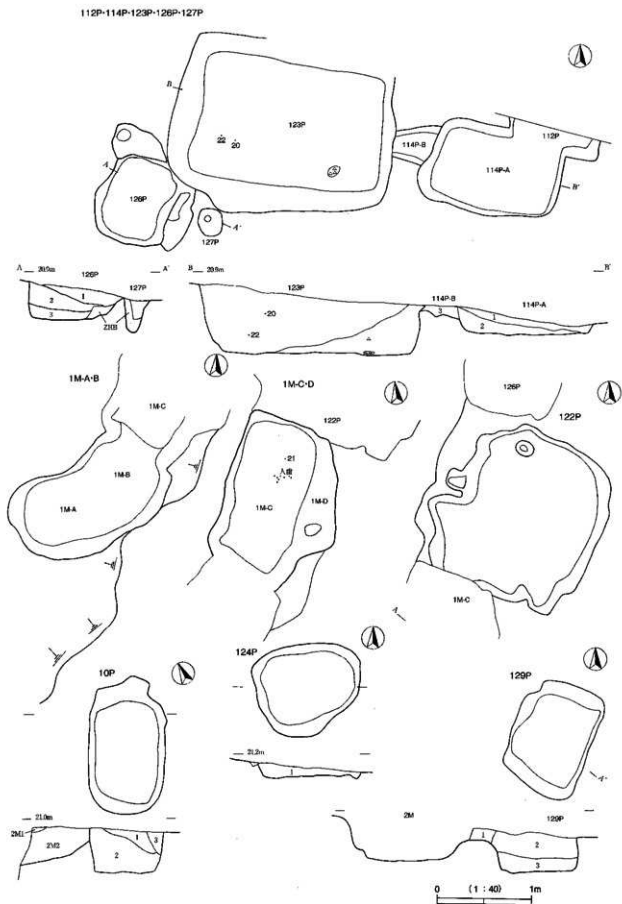
122 P 土坑

覆土 黄色スコリア、ロームブロック、粘土を含む暗褐色土、径1～10 cmのロームブロックを多量含む褐色土。黄色スコリアを多量、径1～2 cmのロームブロックを含み、しまりの弱い暗褐色土から成る。出土遺物 陶器小片等7点。

123 P 土坑



第15図 中・近世遺構実測図(1)



第16図 中・近世遺構実測図(2)

第10表 中・近世遺構(特殊遺構、2区北部上坑群)計測表

遺構No	位置	平面形態	上面規模(m)	底面形態	底面規模(m)	深さ(m)	長軸方位	遺物
4 P	1区1区1内	不整形	0.37×0.29	不整形	0.27×0.2	0.2	N-64°-W	なし
5 P	1区1区1内	楕円形	0.39×0.23	楕円形	0.33×0.2	0.16	N-66°-W	なし
6 P	1区1区1内	不整形	0.37×0.33	不整形	径0.27	0.11	—	なし
8 P	1区1区1に接する	円形	0.25×0.21	楕円形	0.07×0.03	0.08	—	なし
9 P	1区1区1内	円形	径0.9	円形	0.7×0.68	0.27	—	なし
11-P 1	1区1区1内	円形	0.66×0.57	円形	径0.4	0.18	—	なし
11-P 2	1区1区1内	円形	径0.59	楕円形	0.5×0.43	0.11	—	なし
11-P 3	1区1区1内	不整形	0.79×0.66	不整形	0.67×0.5	0.22	—	なし
11-P 4	1区1区1内	楕円形	0.24×0.2	楕円形	0.1×0.06	0.08	—	なし
1 P	1区	方形	1.6×1.1	方形	1.57×1.07	0.12	N-21°-E	土師器 2点
105 P	1区	不整形	2.86× 0.57~1.28			0.17	N-47°-E	15点
		小十坑 円形	0.38×0.35		0.28×0.26	0.23		
30 P	2区	不整形	1.4×1.13			0.11	N-89°-W	なし
						0.16		
						0.45		
37 P	2区	長方形	1.28×0.78	長方形	1.17×0.66	0.11	N-73°-W	なし
38 P	2区	不整形	1.7×1.3	不整形	1.55×1.15	0.24	N-90°	なし
		底面ビット	0.4×0.36		0.3×0.25	0.129	N-75°-W	
39 P-A	2区	楕円形	1.46×1.14	楕円形	1.35×1.01	0.26	N-80°-W	なし
39 P-B			1.05		0.75	0.26	—	
39 P-C		方形か			0.51×0.12	0.16	—	
39 P-D		楕円形	0.6×0.45	楕円形	0.4×0.26	0.65	N-75°-E	
40 P-A		長方形	1.05×0.81	長方形	0.86×0.69	0.2	N-76°-W	
40 P-B	2区	円形	径0.27	長楕円形	0.16×0.07	0.49	—	なし
111 P	2区	隅丸方形	0.98×(0.48)	隅丸方形	0.84×(0.41)	0.08	—	なし
112 P	2区	隅丸方形か	0.97×(0.25)	隅丸方形か	0.83×0.17	0.17	—	なし
113 P	2区	隅丸方形	1.08×0.87	隅丸方形	0.82×0.67	0.22	N-85°-W	なし
114 P-A	2区	隅丸方形	1.49×0.96	隅丸方形	1.28×0.78	0.32	N-76°-W	なし
114 P-B		不明	0.48×0.45		0.43×0.3	0.14		
115 P	2区	五角形	1.28×0.81	方形	1.03×0.88	0.51	N-72°-W	なし
116 P	2区	円形	0.23×0.08	楕円形	0.13×0.08	0.27	N-61°-E	なし
117 P	2区	隅丸方形	0.98×0.48	隅丸方形	0.84×(0.41)	0.08	—	なし
122 P	2区	不整形 ビット	1.89×1.79 0.19×0.15	不整形	0.08×0.06	0.38 0.46	N-26°-E	7点
123 P	2区	方形	2.35×1.85	方形	2.02×1.34	0.75	N-8°-W	19点 貝
124 P	2区	不整形楕円形	1.16×1.0	不整形楕円形	0.95×0.77	0.21	N-67°-E	なし
126 P-A	2区	方形	0.95×0.8	方形	0.85×0.61	0.43	N-21°-E	4点
126 P-B		楕円形か	0.72×0.24	楕円形か	0.35×0.11	0.21	—	
126 P-C		楕円形か	0.45×0.34	円形	0.15×0.11	0.32	—	
127 P		2区	円形	0.29×0.26	円形	径0.07	0.34	
129 P	2区	方形	1.19×0.84	方形	0.9×0.75	0.21~0.43	N-22°-E	なし
1 M-A	1区	隅丸方形か	0.5×0.46	隅丸方形	0.4×0.35	0.33	N-66°-E	なし
1 M-B	1区	不明	0.55×0.48	不明	0.55× 0.23~0.39	0.33	N-38°-E	なし
1 M-C	2区	長方形	1.7×1.0	長方形	1.5×0.77	0.51	N-21°-E	8点 歯
1 M-D	2区	不明		楕円形	0.18×0.13	0.46		なし
10 P	1区	長方形	1.46×0.8	長方形	1.07×0.66	0.11~0.42	N-24°-E	土師器 4点

覆土 焼土ブロックを含む黒褐色土、黄色スコリアを多量、径1～3cmのロームブロックを含み、しまりの弱い暗褐色土などから成る。北東壁土層にも記載がある。出土遺物 19点。内訳は、陶器1点、瓦質土器1点、素焼土器1点、土師器14点、中礫1点、小礫1点、貝殻（アカニシ1個体分 写真図版8）である。瓦質土器等を図示した（第23図18・20・22、第13表）。

126P土坑

出土遺物 総数4点。内訳は土師器3点、緑泥片岩1点。

127P土坑

覆土 褐色土。ロームを含む。

1M-C土坑

出土遺物 土器8点。内訳は、内耳土器1点、土師器7点。他に人歯が約16点分ある（写真図版8）。底面より15～3cm上で出土した。内耳土器を図示した（第23図21、第13表）。特記事項 墓坑と考えられる。

1M-D土坑

覆土 褐色土。径1cmのロームブロックをまばらに、ローム、粘土を含む。

10P土坑

出土遺物 土師器4点。

6. その他の土坑

第17図～第19図と第11表を参照されたい。合計138基である。

覆土 覆土の説明の無いものについては簡略にまとめて報告する。

暗褐色土を主体とする遺構 12P土坑～16P土坑、18P土坑～23P土坑、25P土坑～29P土坑、31P土坑、33P土坑、36P土坑、41P土坑～46P土坑、49P土坑、51P土坑、53P土坑、55P土坑、58P土坑、59P土坑、60P-A土坑（AがBを切る）、64P土坑、72P土坑、73P土坑、77P土坑、81P土坑、83P土坑、84P土坑、89P土坑、91P土坑、92P土坑、100P-B土坑、101P土坑、104P土坑、106P土坑、107P土坑、109P土坑、110P土坑、162P土坑、165P土坑（焼土含む）、166P土坑

褐色土を主体とする遺構 24P土坑、35P土坑、48P土坑、56P土坑（粘土質）、57P土坑、60P-B土坑、61P土坑、62P土坑、69P土坑、74P土坑～76P土坑、82P土坑、85P土坑、86P土坑、93P土坑、94P土坑、96P土坑、97P土坑、99P土坑、102P土坑、118P土坑～121P土坑

灰褐色土を主体とする遺構 17P土坑

黒褐色土を主体とする遺構 169P土坑

暗褐色～褐色土を主体とする遺構 52P土坑、65P土坑～67P土坑、70P土坑、71P土坑、78P土坑、80P土坑、88P土坑、90P土坑、100P-A土坑、103P土坑

暗褐色土・褐色土・粘土・ロームブロックが混じり合った土の遺構 68P土坑

上部褐色土、下部暗褐色土上の遺構 54P土坑

上部暗褐色土、下部褐色土上の遺構 63P土坑、87P土坑

上部暗褐色～褐色土、下部暗褐色土上の遺構 170P土坑

上部粘土混じり暗褐色土、下部黒褐色土上の遺構 173P土坑

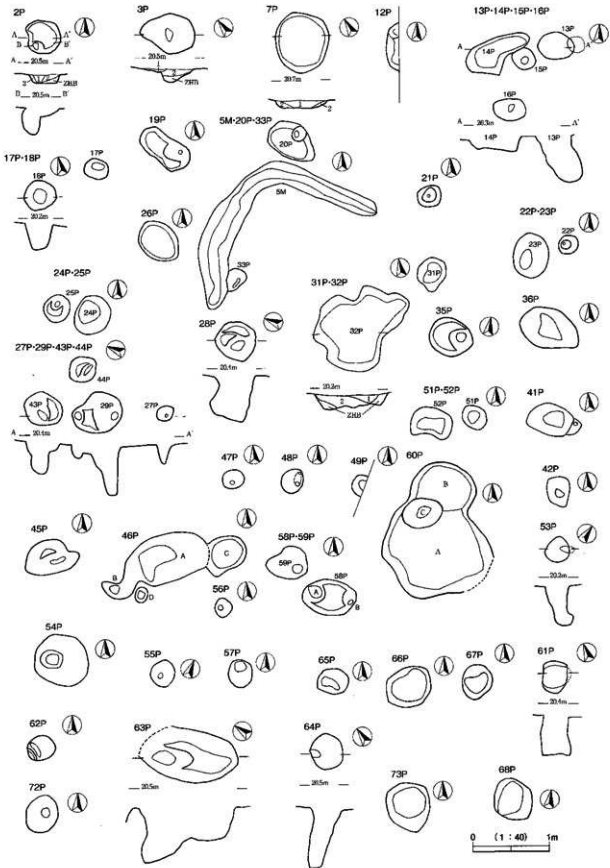
暗褐色土・褐色土が混じり合う土を主体とし、壁際は褐色土となる遺構 95P土坑

上から褐色土～暗褐色土～黒褐色土～暗褐色土と変化する遺構 79P土坑

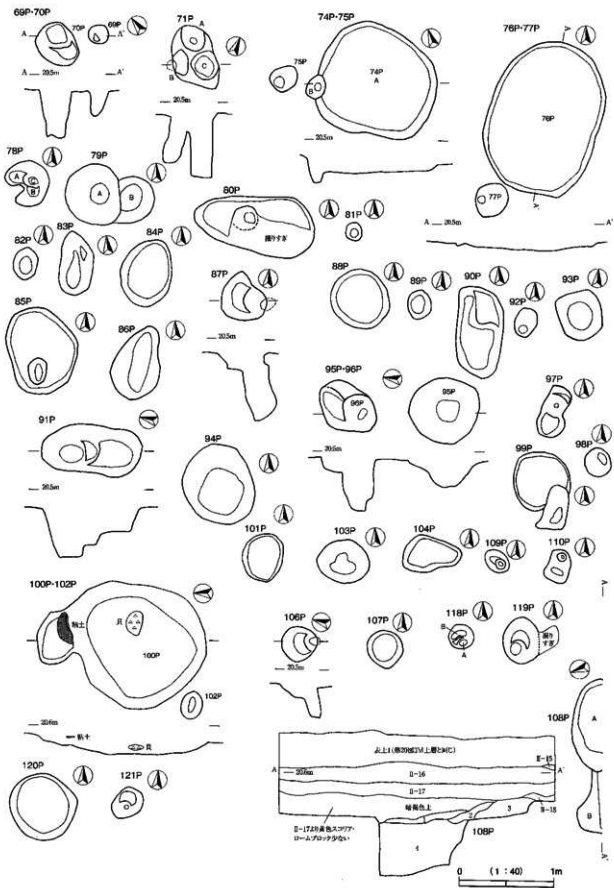
出土遺物 遺物について複数の遺物が出土した遺構等について触れておく。

23P土坑 土師器2点、焼成粘土塊1点。

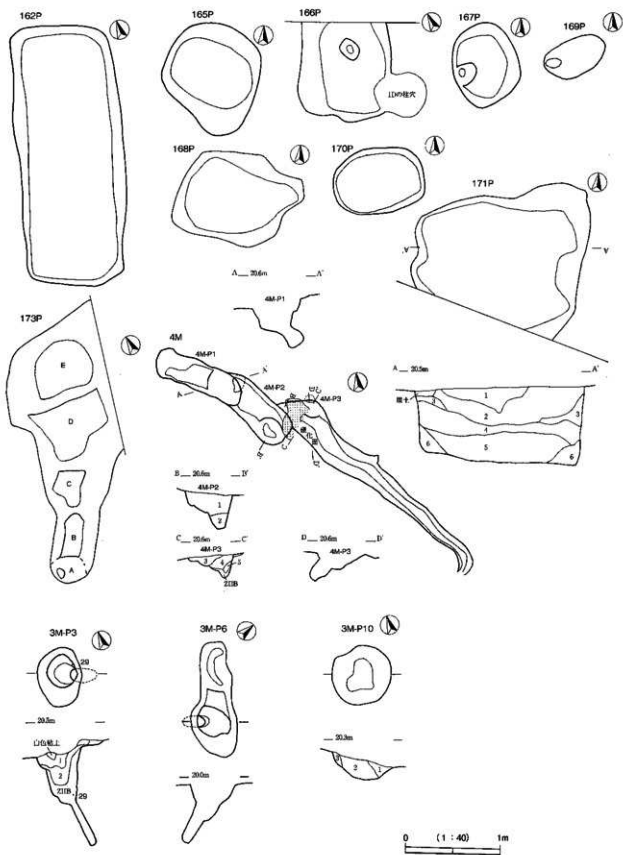
32P土坑 土師器、鉄分のような塊（高師小僧か）各1点。



第17圖 中・近世遺構実測図(3)



第18図 中・近世遺構実測図(4)



第19図 中・近世遺構実測図(5)

100P-A土坑 土師器の甕の頸部1点。貝ブロックがあり、貝種はハマグリとアサリ（写真図版8）、ハマグリ右殻・左殻各14点。脆くなっている。アサリ左殻1点。他に炭化材1点。

132P土坑 陶磁器類5点、土師器1点、瓦3点。陶器2点を図示した（第23図27・28、第13表）。

133P・134P・138P・140Pいずれも9M10Mの一部とし、単独の遺構として扱わなかった。それぞれ土師器が1点ずつ出土した。134Pのロクロ坏を図示した（第10図42、第7表）。

162P土坑 土師器小片8点。

7. 溝状遺構・溝跡（第17図・第19図～第22図）

溝状遺構は2基、溝跡は11条である。なお1Mは、溝跡として調査を始めたが、結果的には1M-A～D4基の土坑群と判断した。

4M溝状遺構（第19図）

出土遺物 素焼土器小片1点。特記事項 溝状遺構と3基の土坑が交わっているものを4Mとして捉えた。特殊遺構とした1I遺構と105P遺構をつなぐように存在している。

5M溝状遺構（第17図）

覆土 粘土ブロックを少量含む暗褐色土。

2M溝跡

出土遺物 150点。内訳は、土師器124点、陶器9点、かわらけ2点、素焼土器2点、焼成粘土塊2点、小礫4点等である。特記事項 ベルト01より北側では溝跡として明瞭であるが、南側になると次第に不明瞭になった。南に行くほど幅を広げつつ、3Mにつながるのかもしれない。他方、北で明瞭、南は不明瞭という点は11M溝跡と似ている。2Mが16Mとつながれば、11Mと同じような形態となり、屈曲する付近に大土坑があるのも共通する。

3M溝跡

出土遺物 148点。このうち図示した瓦質土器の破片が83点を占める（第24図35・36、第13表）。他に陶器6点、瓦質・素焼土器10点、かわらけ1点、土師器39点、須恵器1点、板碑片1点、管状土錘1点、小礫4点等である。瓦質土器・板碑片・管状土錘等を図示した（第24図31～36、第13表）。板碑片は武蔵型板碑の上部の破片であろう。文字があったようであるが、意図的に削り取ったようである。八千代市浅間内遺跡採集品に類例がある（八千代市遺跡調査会2007年）。管状土錘は、同様のものが確認調査M-3Tで出土している。特記事項

3M溝跡は、調査区南端で幅8m程の溝と捉えた。しかし1回日の表土除去を2Mと3Mの間付近で終了しなければならず、その時点では両溝が同一かどうかなどを明らかにできなかった。2M・3M双方の東壁に着目すれば、1条の溝と見える。しかし、後の表土除去で、3Mの南西壁らしき立ち上りが検出され、さらに174Pとして調査した遺構の壁が北壁となり、3Mは溝というよりも不整な方形の堅穴状遺構である可能性が出てきた。しかしこの点を明らかにし得ないまま調査を終了せざるを得なかった。3M底面には小土坑が多数検出された。そのうちP3としたものからは、使い込まれて長軸断面が三角形となった砥石が出土した。

8M溝跡

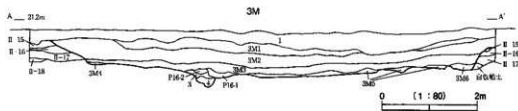
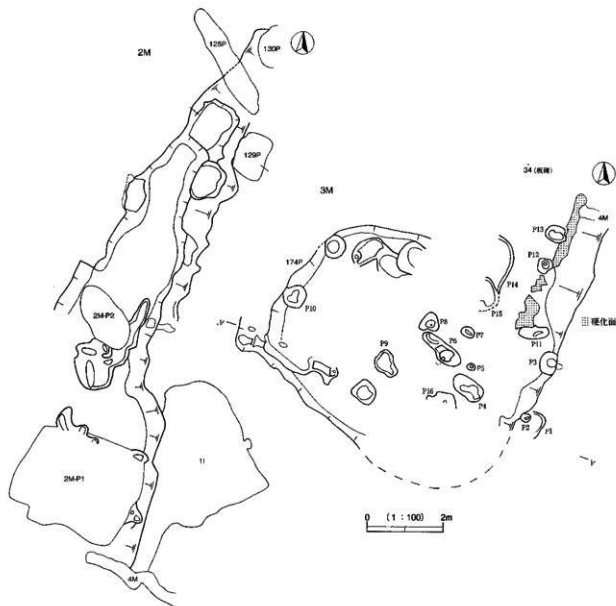
出土遺物 土師器小片2点。特記事項 132P土坑を切っている。

9M溝跡

出土遺物 76点。内訳は、土師器片62点、陶器5点、素焼土器4点、焼成粘土塊2点、小礫3点である。陶器を図示した（第24図38、第13表）。

10M溝跡

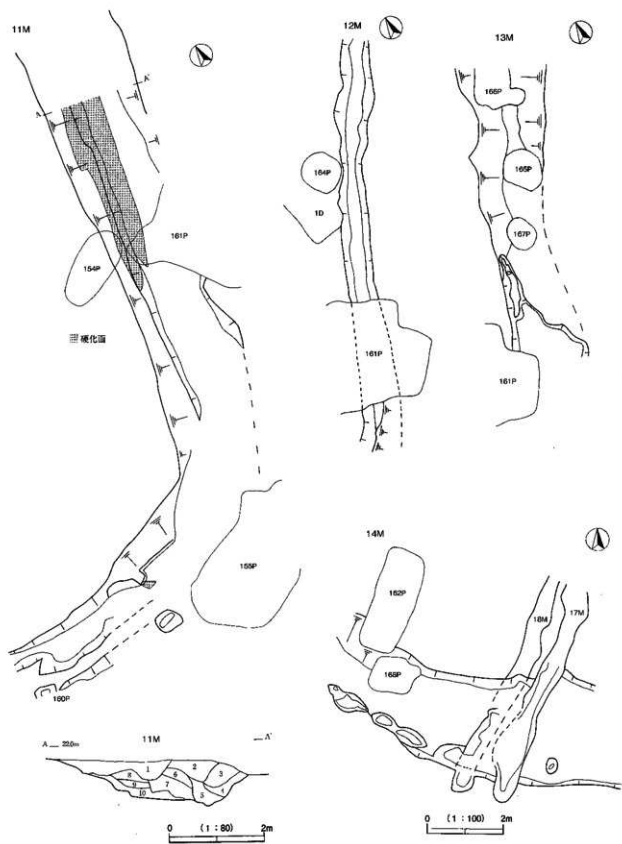
出土遺物 48点。内訳は、土師器片34点、須恵器1点、陶器4点、素焼土器2点、焼成粘土塊6点である。砥石に転用された陶器片、陶器小皿各1点を図示した（第24図39・40、第13表）。特記事項 様相は複雑で、複



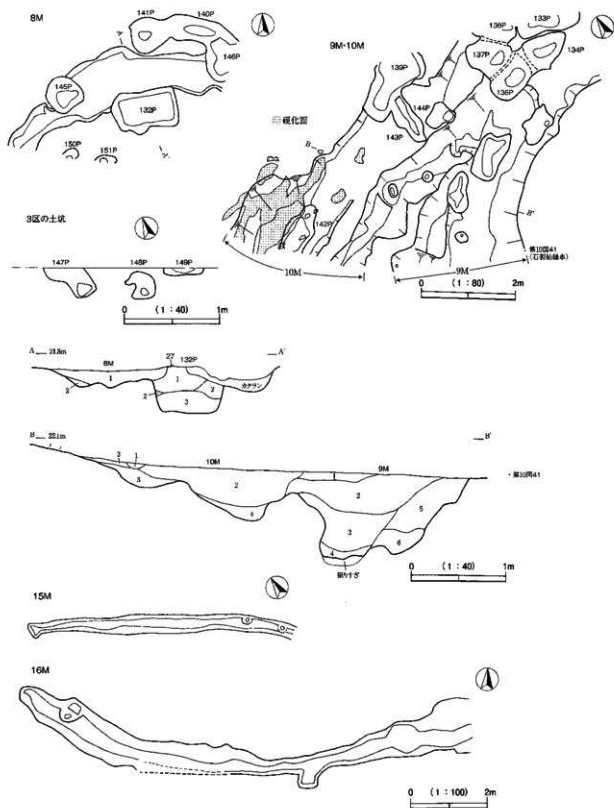
第20図 2M清跡・3M清跡実測図

3M清跡土層

No.	層名	色	層深度	含有物等
1	表土	75YR 3/3	13~22	径1~3mm褐色スコリア・炭化材片を多数含む。小・細礫あり。
2	II-15	75YR 3/3	25~27	炭化殻。径1~3mm褐色スコリアを多数含む。炭化材片・焼土殻片を含む。
3	II-16	75YR 3/3	17	径1~3mm褐色スコリアを多数含む。白色粘土を少量含む。
4	II-17	75YR 3/3	15~18	径1~3mm褐色スコリアを多数含む。径1cmロームブロック・白色粘土を含む。
5	II-18	75YR 3/3・4/6	11~16	ローム・径3~5cmロームブロックを含む。
6	3M層上1	75YR 3/3	12~16	径1~3mm褐色スコリア・炭化材片をまばらに含む。
7	3M層上2	75YR 3/3	15~16	径1~3mm褐色スコリア・炭化材片をまばらに含む。6より可塑性強い。
8	3M層上3	75YR 3/3・3/2	15~18	径1~3mm褐色スコリア・炭化材片をまばらに含む。白色粘土を少量含む。
9	3M層上4	75YR 3/3・4/6	13	ローム・白色粘土を含む。
10	3M層上5	75YR 3/3・3/4	16~20	径3~5mm褐色スコリアをまばらに含む。白色粘土を含む。
11	3M層上6	75YR 3/3・3/4	13~15	径1~3mm褐色スコリアをまばらに含む。径1cmロームブロックを含む。



第21図 11M~14M溝跡実測図



第22図 8M~10M, 15M・16M溝跡実測図

第11表 中・近世遺構(土坑)計測表

遺構No	位置	平面形態	上面規模(m)	底面形態	底面規模(m)	深さ(m)	長軸方位	遺物
2 P	1区	不整形	0.39×0.38	不整形	0.32×0.2	0.12	—	なし
3 P	1区	楕円形	0.57×0.43	長楕円形	0.19×0.07	0.14	N-56°-W	なし
7 P	1区	円形	0.63×0.56	円形	0.53×0.48	0.08	—	かわらけ1点
12 P	2区	一部のみ	(0.5×0.14)	有段	0.28×0.08 0.07×0.04	0.16~0.33	—	土師器1点
13 P	2区	楕円形	0.36×0.29	円形	径0.17	0.48	N-87°-E	なし
14 P	2区	不整形楕円形	0.72× 0.21~0.39	不整形楕円形	0.57× 0.14~0.25	0.1~0.19	N-62°-E	なし
15 P	2区	円形	0.26×0.22	円形	0.08×0.07	0.13	—	なし
16 P	2区	楕円形	0.34×0.23	楕円形	0.08×0.04	0.22	N-81°-E	なし
17 P	2区	楕円形	0.26×0.2	楕円形	0.13×0.08	0.13	N-56°-W	なし
18 P	2区	円形	0.35×0.31	円形	0.15×0.14	0.29	—	土師器3点
19 P	2区	長方形	0.58×0.31	有段	0.49×0.16 径0.04	0.041~0.079 0.48	N-61°-W	なし
20 P	2区	楕円形	0.54×0.38	有段	0.44×0.27 0.07×0.05	0.08 0.52	N-58°-W	なし
21 P	2区	円形	0.26×0.25	尖底	—	0.46	—	なし
22 P	2区	円形	0.21×0.19	尖底	—	0.22	—	なし
23 P	2区	楕円形	0.48×0.37	楕円形	0.21×0.13	0.54	N-4°-E	3点
24 P	2区	不整形円形		不整形円形		0.14	N-33°-E	なし
25 P	2区	円形	0.29×0.28	有段	0.16×0.06 0.07×0.05	0.14 0.21	—	なし
26 P	2区	楕円形	0.49×0.37	楕円形	0.42×0.29	0.08	N-43°-W	なし
27 P	2区	円形	0.2×0.16	尖底	—	0.21	—	なし
28 P	2区	円形	0.43×0.41	有段		0.37 0.44 0.49		なし
29 P	2区	不整形楕円形	0.53×0.45	2カ所	0.09×0.06 0.08×0.06	0.54 0.14	N-20°-W	なし
31 P	2区	不整形楕円形	0.36×0.3	不整形楕円形	0.23×0.14	0.19	N-32°-E	なし
32 P	2区	不整形	1.05×0.86	不整形	0.92×0.68	0.22	N-64°-E	2点
33 P	2区	不整形	<0.27>×0.18	長楕円形	0.11×0.02	0.1	—	なし
35 P	2区	円形	0.47×0.39	有段		0.19 0.36	—	なし
36 P	2区	楕円形	0.66×0.45	不整形楕円形	0.35×0.2	0.17	N-62°-W	陶磁器1点
41 P-A	2区	楕円形	0.45×0.33	不整形楕円形	0.22×	0.29	N-77°-W	なし
41 P-B	2区	半円形	0.19×0.1	円形	径0.04	0.11	—	なし
42 P	2区	不整形楕円形	0.34×0.25	不整形楕円形	0.11×0.08	0.13	N-26°-W	なし
43 P	2区	楕円形	0.4×0.35	有段		0.13 0.36	—	なし
44 P	2区	円形	0.31×0.27	有段		0.06 0.12	—	なし
45 P	2区	不整形楕円形	0.58×0.37	有段	0.17×0.04	0.2 0.35	N-74°-E	なし
46 P-A	2区	長楕円形	0.9×0.51	不整形	0.38×0.21	0.47	N-65°-E	土師器2点
46 P-B		楕円形	0.3×0.15	円形	0.11×0.1	0.13	N-62°-W	
46 P-C		楕円形	0.46×0.36	円形	0.33×0.28	0.12	N-47°-E	
46 P-D		楕円形	0.17×0.13	円形	0.09×0.08	0.39	N-3°-E	
47 P	2区	円形	0.23×0.2	円形	径0.04	0.25	—	なし
48 P-A	2区	楕円形	0.27×0.23		径0.03	0.19	N-12°-E	なし
48 P-B					0.05×0.03	0.15		
49 P	1区	円形か	(0.22×0.13)	円形か	0.1×0.07	0.2	—	なし
51 P	1区	楕円形	0.29×0.23	不整形楕円形	0.14×0.11	0.08	N-48°-W	なし
52 P	1区	不整形楕円形	0.44×0.28	不整形楕円形	0.29×0.17	0.13	N-85°-W	なし
53 P	1区	円形	0.27×0.25	楕円形	0.15×0.07	0.42	N-52°-E	なし
54 P	1区	円形	0.59×0.53	円形	0.13×0.11	0.56	N-85°-W	なし
55 P	1区	円形	0.29×0.25	円形	0.06×0.05	0.5	—	焼粘塊1点
56 P	1区	円形	0.2×0.18	円形	径0.05	0.08	—	なし
57 P	1~2区	楕円形	0.29×0.24	円形	0.12×0.11	0.41	N-18°-W	土師器1点
58 P-A	1区	楕円形	0.57×0.38		0.16×0.13	0.29	N-75°-W	なし
58 P-B					0.06×0.04	0.26		
59 P	1区	不整形円形	0.41×0.35	円形	0.1×0.09	0.3	—	土師器1点
60 P-A	1区	隅丸方形	1.06×1.03	不整形方形	0.82×0.75	0.09	N-65°-E	かわらけ1点
60 P-B		楕円形	0.67	楕円形	0.54×0.45	0.21	N-70°-W	なし
60 P-C		楕円形	0.43×0.31	楕円形	0.17×0.11	0.56	N-65°-E	なし
61 P		楕円形	0.34×0.26	楕円形	0.3×0.24	0.43	N-69°-W	なし

遺構No	位置	平面形態	上面規模(m)	底面形態	底面規模(m)	深さ(m)	長軸方位	遺物
62P	1区	槽凹形	0.29×0.26	有段	0.19×0.05 0.13×0.04	0.45 0.4	N-40°-E	なし
63P	1区	長楕円形	1.04×0.55	有段	0.72×0.25 0.24×0.14	0.44 0.61	N-26°-W	土師器1点
64P	1区	円形	0.37×0.34	楕円形	0.11×0.08	0.63	N-45°-W	なし
65P	1区	円形	0.31×0.28	長楕円形	0.20×0.1	0.21	N-68°-W	なし
66P	1区	楕円形	0.52×0.42	楕円形	0.4×0.3	0.14	N-52°-E	なし
67P	1区	槽凹形	0.38×0.31	不整楕円形	0.24×0.17	0.08	—	なし
68P	1区	円形	0.48×0.41	不整楕円形	0.38×0.25	0.45	N-15°-E	土師器1点
69P	1区	円形	0.22×0.2	不整楕円形	0.08×0.05	0.26	—	なし
70P	1区	槽凹形	0.49×0.39	有段	0.19×0.14 0.2×0.19	0.39 0.53	N-5°-W	なし
71P-A	1区	円形	0.31×0.24	楕円形	0.08×0.06	0.39	—	なし
71P-B		楕円形	0.27×0.16	円形	径0.11	0.51		
71P-C		円形	0.29×0.27	楕円形	0.22×0.18	0.66		
72P	1区	楕円形	0.41×0.33	円形	径0.1	0.66	—	なし
73P	1区	楕円形	0.54×0.46	円形	0.35×0.31	0.2	—	焼粘土2点
74P-A	1区	隅丸方形	1.27×1.18	隅丸方形	1.09×1.02	0.15	N-46°-W	なし
74P-B		槽凹形	0.26×0.2	楕円形	0.08×0.06	0.29	N-34°-E	
75P	1区	楕円形	0.3×0.25	円形	0.12×0.1	0.31	N-90°-E	なし
76P	1区	楕円形	1.63×1.16	楕円形	1.53×1.05	0.02~0.18	N-20°-E	なし
77P	1区	円形	径0.35	円形	径0.08	0.75	—	砥石1点
78P-A	1区	C字形	0.48× 0.28~0.4	楕円形	0.14×0.13	0.32	—	なし
78P-B				楕円形	0.12×0.09	0.3		
78P-C				楕円形	0.1×0.08	0.41		
79P-A	1区	円形	0.66×0.57	円形	0.22×0.2	0.26	—	炭化物
79P-B		円形	0.49~(0.35)	楕円形	0.31×0.23	0.09		
80P	1区	長楕円形	1.27×0.65	長楕円形 底面ビット	1.13×0.37 0.13×0.1	0.11 0.33	N-79°-W	なし
81P	1区	円形	0.19×0.17	円形	0.09×0.08	0.09	—	なし
82P	1区	楕円形	0.34×0.25	楕円形	0.19×0.14	0.39	N-5°-E	なし
83P	1区	長楕円形	0.68×0.35	有段	0.16×0.06 0.4×0.15	0.18 0.28	N-2°-W	なし
84P	1区	楕円形	0.72×0.54	楕円形	0.59×0.41	0.08	N-23°-E	なし
85P	1区	楕円形	0.91×0.73	楕円形	0.8×0.65	0.08	N-4°-W	土師器2点
85P		底面ビット	0.26×0.2	楕円形	0.18×0.08	0.15		
86P	1区	楕円形	0.8×0.52	長楕円形	0.63×0.18	0.21	N-11°-E	なし
87P	1区	不整形	0.5×0.49	有段	0.3×0.14	0.16 0.71	—	土師器1点
88P	1区	円形	0.63×0.59	円形	0.52×0.48	0.68	—	焼粘土1点
89P	1区	楕円形	0.31×0.25	楕円形	0.19×0.14	0.07	N-10°-E	なし
90P	1区	長方形	0.94×0.49	有段	0.35×0.21 0.77×0.35	0.17 0.26	N-3°-W	なし
91P	1区	長楕円形	1.06×0.51	有段(3段)	0.36×0.3 0.21×0.13 0.25×0.18	0.29 0.39 0.53	N-14°-W	土師器2点
92P	1区	楕円形	0.31×0.24	円形	0.09×0.08	0.11	N-13°-E	なし
93P	1区	不整形	0.51×0.45	楕円形	0.3×0.25	0.18	N-14°-W	瓦質1点
94P	1区	楕円形	0.87×0.72	不整形	径0.5	0.22	N-14°-W	なし
95P	1区	円形	0.76×0.7	楕円形	0.29×0.22	0.27	N-13°-W	土師器1点
96P	1区	槽凹形	0.68×0.49	有段	0.37×0.15 0.13×0.08	0.16 0.56	N-21°-E	なし
97P	1区	長楕円形	0.55×0.29	有段(3段)	0.2×0.18 0.18×0.06 径0.04	0.08 0.06 0.18	N-20°-E	なし
98P	1区	円形	0.31×0.27	楕円形	0.14×0.07	0.16	—	なし
99P-A	1区	円形	0.63×0.61	円形	径0.54	0.1	—	なし
99P-B		不整形	0.48×0.26	長楕円形	0.19×0.09	0.23		
100P-A	1区	不整形	1.45×1.33	不整形	1.15×0.94	0.21	N-44°-E	1点、貝ブロッコ
100P-B		楕円形	0.56×0.43	楕円形	0.5×0.36	0.1	N-66°-E	
101P	1区	槽凹形	0.51×0.43	楕円形	0.47×0.34	0.03	N-6°-E	なし
102P	1区	楕円形	0.29×0.22	長楕円形	0.16×0.06	0.05	N-81°-W	なし
103P	1区	楕円形	0.55×0.47	不整形	0.26×0.23	0.17	—	なし
104P	1区	不整形	0.6×0.45	不整形	0.46×0.31	0.1	N-76°-W	なし
106P	1区	円形	0.39×0.38	有段	0.24×0.11 0.11×0.09	0.12 0.34	N-10°-W	炭化材
107P	1区	円形	0.4×0.38	円形	0.29×0.26	0.11	—	なし

第2章 検出された遺構と遺物

遺構No.	位置	平面形態	上面規模(m)	底面形態	底面規模(m)	深さ(m)	長軸方位	遺物
108 P-A	1区	一部のみ調査	0.99×(0.31)		0.72×(0.25)	0.66	—	なし
108 P-B			0.66×(0.26)		0.6×(0.05)	0.17		
109 P	1区	楕円形	0.3×0.21	有段	0.09×0.06 0.06×0.04	0.09 0.18	N-51°-W	なし
110 P	1区	楕円形	0.35×0.25	円形 楕円形	径0.03 0.14×0.05	0.13 0.11	N-22°-E	なし
118 P	2区	円形	径0.26	2カ所		0.15 0.23	—	なし
119 P	2区	楕円形	0.49×(0.38)	有段	1.09×0.1 0.13×0.1	0.14 0.25	N-16°-E	なし
120 P	2区	円形	0.71×0.66	円形	0.59×0.52	0.23	—	土師器1点
121 P	2区	楕円形	0.36×0.29	有段	0.18×0.11 径0.03	0.15 0.27	N-21°-E	なし
128 P-B	2区	不整形	0.71×0.56	円形	径0.05	0.35	N-87°-W	なし
132 P	3区	長方形	1.37×0.8	長方形	1.1×0.6	0.4	N-79°-E	9点
145 P	3区	不整形	径0.73	三角形	0.47×0.31	0.3	—	10点
147 P	3区					0.25	—	なし
148 P	3区	不整形	0.32× 0.15~0.3	楕円形	0.07×0.05	0.2	—	なし
149 P	3区					0.14	—	なし
150 P	3区		0.33×0.25			0.4	—	なし
151 P	3区		0.41×0.14			0.22	—	なし
162 P	5区	長方形	2.75×1.1	長方形	2.61×0.87	0.2~0.3	N-20°-E	8点
165 P	5区	不整形	1.2×1.05	楕円形	0.87×0.63	0.35~0.52	N-64°-W	土師器4点
166 P	5区	長方形か 底面ビット	(1.07)×0.98 0.22×0.17	長方形か	(0.97)×0.67 0.09×0.07	0.2~0.36 0.46	N-13°-E	なし
167 P	5区	楕円形	0.83×0.7	有段	0.67×0.5 0.08×0.07	0.17~0.27 0.58	N-67°-E	土師器1点
168 P	5区	不整形	1.41×1.11	不整形楕円形	1.17×0.85	0.3	N-74°-E	なし
169 P	5区	楕円形	0.67×0.38	楕円形	0.16×0.1	0.25	N-66°-E	なし
170 P	5区	楕円形	0.96×0.7	楕円形	0.88×0.59	0.25	N-78°-E	なし
171 P	5区	方形か	1.82×(1.63)	不整形	1.66×(1.26)	0.8	—	土師器3点
173 P	5区	長楕円形	3.0×(0.54)	有段		0.92 0.45 0.55 0.75 1.02	N-29°-E	土師器6点 焼粘土3点
3 M-P3	1区	楕円形	0.63×0.45			0.94	N-69°-W	3点
3 M-P6	1区	長楕円形	1.22× 0.27~0.48			0.62	N-46°-E	なし
3 M-P10	1区	円形	0.65×0.63	不整形	0.37×0.25	0.3	—	なし
4 M-P1	1区	長方形	0.97×0.3	有段	0.46×0.2 0.18×0.14	0.52	N-69°-W	なし
4 M-P2	1区	長方形	0.93×0.36	有段	0.6×0.23 0.19×0.08	0.36	N-34°-W	なし
4 M-P3	1区	円形	径0.18		径0.08	0.29		なし

第12表 溝状遺構・溝跡計測表

遺構No.	位置	幅(m)	長さ(m)	長軸方位	遺物	深さ(m)
4 M	1区	0.1~0.36	0.39×0.23	N-48°-W	1点	0.17
5 M	2区	0.2~0.34	南北1.64 東西1.28	—	なし	0.14
2 M	1区~2区	1.4~2.8	14.4	N-34°-E	150点	0.38
3 M	1区	6.96~8.28		—	148点	0.7
8 M	3区	0.48~1.17	4.65	N-69°-E	2点	0.18
9 M	3区	1.2~2.8	5.96	N-59°-E	76点	0.84
10 M	3区	1.9~2.9	6.2	N-75°-E	48点	0.54~0.64
11 M	4区	南0.5 北2.7	東西6.7 南北12 計18.7	南N-90° 1 N-72°-E 北N-12°-E	22点	0.47 ~ 0.6
12 M	5区	0.48~1.0	10.8	N-15°-E	21点	0.22
13 M	5区	1.6~2.4	7.8	N-13°-E	75点	0.31
14 M	5区	1.9~3.1	8.0	N-74°-W	34点	0.4
15 M	5区	0.28~0.52	7.0	N-56°-W	2点	0.14
16 M	5区	0.4~1.48	11.9	西N-68°-W 東N-81°-E	4点	0.15~0.2

特殊遺構

1 1遺構の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	黄褐色土と褐色粘土を交互に作り出す。
2	埋戻土	弱	粘土を含む。
3	埋戻土	弱	粘土を含む。
4	埋戻土	弱	ローム、ロームブロックを少量含む。若干の土塊。
5	埋戻土・埋戻土	中	ローム下土。埋戻土が厚く、大粒の餅土あり。

4 P土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、粘土を含む。
2	埋戻土	弱	

5 P土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数含む。
2	埋戻土	中	餅土・2cmロームブロック、粘土を含む。

6 P土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	褐色スクリヤ、粘土を含む。

8 P土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数含む。

1 P遺構の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	弱	餅土・1cmロームブロックを多数含む。
2	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土・2cmロームブロックをまばらに含む。
3	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土・2cmロームブロックをまばらに含む。
4	埋戻土・粘土	中	ロームを多く含む。

105P遺構の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	褐色スクリヤ、粘土を含む。
2	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土を含む。
3	埋戻土	中	粘土を含む。
4	埋戻土	中	粘土を含む。

2区北部土坑群

113 P土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	弱	餅土・2cmロームブロック、褐色スクリヤ、粘土を含む。
2	埋戻土	弱	餅土・2cmロームブロック、褐色スクリヤ、粘土を含む。

114 P-A・B土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	弱	餅土・2cmロームブロック、褐色スクリヤ、粘土を含む。
2	埋戻土	弱	餅土・2cmロームブロック、褐色スクリヤ、粘土を含む。
3	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土・1cmロームブロックを含む。

115 P土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土・埋戻土	中	ローム、粘土を多くし、埋戻土を少量含む。
2	埋戻土	弱	餅土を含む。餅土・1cmロームブロックを含む。
3	埋戻土	弱	褐色スクリヤ、餅土・3cmロームブロック、粘土を含む。

122 P土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	褐色スクリヤ、ロームブロック、粘土を含む。
2	埋戻土	弱	餅土・10cmロームブロックを多数含む。
3	埋戻土	弱	褐色スクリヤを多数、餅土・2cmロームブロックを含む。

124 P土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土・埋戻土	弱	ローム、褐色スクリヤ、餅土・2cmロームブロックを多数含む。

126 P土坑・127 P土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	褐色スクリヤ、餅土・10cmロームブロックを含む。
2	埋戻土・埋戻土	中	ローム、餅土・10cmロームブロックを含む。
3	埋戻土・埋戻土	中	ローム、餅土・10cmロームブロックを含む。
4	埋戻土	中	ローム質。

129 P土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	弱	褐色スクリヤを多数、餅土・1cmロームブロックをまばらに含む。
2	埋戻土	弱	褐色スクリヤを多数、餅土・1cmロームブロックをまばらに含む。
3	埋戻土	弱	褐色スクリヤを多数、餅土・1cmロームブロックをまばらに含む。

10 P土坑・2 M溝跡の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	弱	餅土・3cmロームブロックを多数含む。
2	埋戻土	弱	餅土・1cmロームブロックを多数含む。
3	埋戻土	弱	ローム質。
4	埋戻土	弱	硬粘土を構成する。
5	埋戻土	弱	餅土・10cmロームブロックをまばらに、粘土ブロックを含む。

その他の土坑

2 P土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	餅土・1cmロームブロックを含む。
2	埋戻土	中	餅土を少量含む。

3 P土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	ロームを含む。
2	埋戻土	中	ロームを含む。

32 P土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	褐色粘土を含む。
2	埋戻土	中	褐色粘土を含む。餅土を少量含む。

108 P土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	褐色スクリヤを含む。
2	埋戻土	中	餅土・1cmロームブロック、餅土・1cmロームブロックを含む。
3	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土・2cmロームブロックをまばらに含む。
4	埋戻土	中	ロームを多く含む。

128 P-B土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1			128 P-A
2			
3	埋戻土	中	褐色スクリヤ、粘土を含む。
4	埋戻土	中	ロームを含む。
5	埋戻土 (やや褐色)	中	硬粘土を含む。
6	埋戻土	中	ローム質、ロームブロックを含む。
7	埋戻土	中	ローム質、ロームブロックを含む。
8	埋戻土・埋戻土	弱	ローム質、餅土・2cmロームブロックを含む。

132 P土坑・8 M溝跡の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	弱	餅土・1cmロームブロック、餅土・1cmロームブロックを含む。
2	埋戻土	弱	餅土・1cmロームブロック、餅土・1cmロームブロックを含む。
3	埋戻土	弱	餅土・1cmロームブロック、餅土・1cmロームブロックを含む。
4	埋戻土	弱	餅土・1cmロームブロック、餅土・1cmロームブロックを含む。
5	埋戻土	弱	餅土・1cmロームブロック、餅土・1cmロームブロックを含む。
6	埋戻土	弱	餅土・1cmロームブロック、餅土・1cmロームブロックを含む。
7	埋戻土	弱	餅土・1cmロームブロック、餅土・1cmロームブロックを含む。
8	埋戻土	弱	餅土・1cmロームブロック、餅土・1cmロームブロックを含む。

171 P土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	褐色スクリヤ、餅土・1cmロームブロックを含む。
2	埋戻土	中	ローム質、餅土・1cmロームブロックを含む。
3	埋戻土	中	餅土・1cmロームブロックを含む。
4	埋戻土	中	餅土・1cmロームブロックを含む。
5	埋戻土	中	餅土・1cmロームブロックを含む。
6	埋戻土	中	餅土・1cmロームブロックを含む。

4 M溝跡の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	弱	褐色スクリヤ、餅土・1cmロームブロックを含む。
2	埋戻土	弱	褐色スクリヤ、餅土・1cmロームブロックを含む。
3	埋戻土	弱	褐色スクリヤ、餅土・1cmロームブロックを含む。
4	埋戻土	弱	褐色スクリヤ、餅土・1cmロームブロックを含む。
5	埋戻土	弱	褐色スクリヤ、餅土・1cmロームブロックを含む。

3 M-P3土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	硬粘土を含む。
2	埋戻土	中	餅土を含む。ローム、硬粘土を含む。

3 M-P10土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	内側に、褐色スクリヤをまばらに含む。
2	埋戻土	中	褐色スクリヤを含む。
3	埋戻土	中	粘土を含む。

3 M-P16土坑の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	硬粘土を含む。
2	埋戻土	中	硬粘土を含む。
3	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数含む。
4	埋戻土	中	粘土・褐色スクリヤを含む。

溝状遺構・溝跡

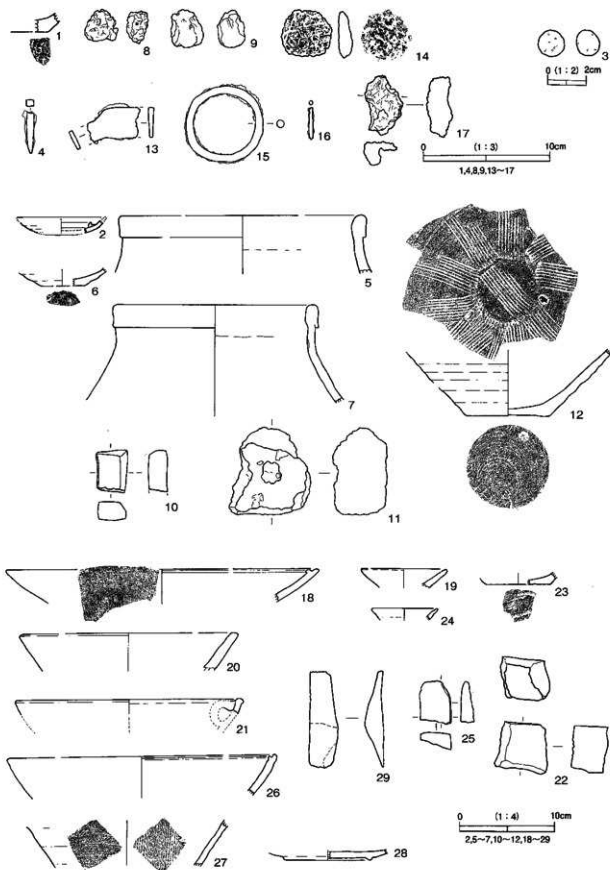
9 M・10 M溝跡の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	餅土・1cmロームブロック、餅土・1cmロームブロックを含む。
2	埋戻土	中	餅土・1cmロームブロック、餅土・1cmロームブロックを含む。
3	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土・1cmロームブロックをまばらに含む。
4	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土・1cmロームブロックをまばらに含む。
5	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土・1cmロームブロックをまばらに含む。
6	埋戻土・埋戻土	中	硬粘土・硬粘土・餅土・1cmロームブロックを含む。

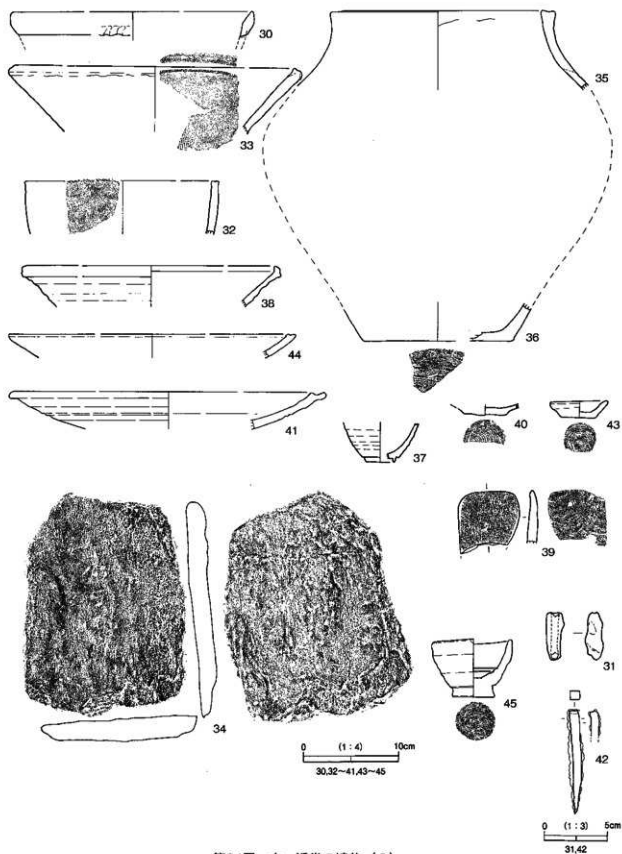
溝状遺構・溝跡

11 M溝跡の覆土

No.	区	土層	内容
1	埋戻土	中	餅土・1cmロームブロック、餅土・1cmロームブロックを含む。
2	埋戻土	中	餅土・1cmロームブロック、餅土・1cmロームブロックを含む。
3	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土・1cmロームブロックを多数含む。
4	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土・1cmロームブロックを多数含む。
5	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土・1cmロームブロックを多数含む。
6	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土・1cmロームブロックを多数含む。
7	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土・1cmロームブロックを多数含む。
8	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土・1cmロームブロックを多数含む。
9	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土・1cmロームブロックを多数含む。
10	埋戻土	中	褐色スクリヤを多数、餅土・1cmロームブロックを多数含む。



第23図 中・近世の遺物 (1)



第24図 中・近世の遺物(2)

第13表 中・近世遺物観察表 (第23回・第24回)

※計測値()内は仮定値, < >内は残存数である。

No.	遺上番号	部材・品名	形状・状態	計測値 (mm)	○粘土・石材	●色澤	形状・状態・文様などの特徴	その他
1	131P 6	瓦質土器 大鉢	碗形	—	○磁砂 ●黒色		外) 縦方向ナデ, ミガキ (底外) 角ナデ 内) 横方向ナデ	近世
2	131P	陶器 壺形皿	作母 (最大径80)< <115>		○磁砂 ●外) 灰褐色 (輪郭), 黒白色 内) 緑色		口口成形	近世
3	131P	土器玉	碗形	14×14×12 1.9g	○磁砂 ●灰褐色		縦筋, 孔無し, 器蓋子の痕跡	
4	131P	鉄製品 内釘	欠損	5.5×3×<34> 43.1g				
5	157P 3	陶器・瓦	口鉢形 (口径200), <高61>		○磁砂, 磁糠 ●外) 紫色 (輪郭) 内) 黒褐色		横方向ナデ	宝徳寺 11~12世紀 後醍醐天皇代
6	172P 1	陶器 皿	碗形 (口径48), <高18>		○磁砂 ●灰白色, 灰褐色		口口成形 底外) 赤切痕	新井丸遺跡
7	2M 20	陶器・瓦	口鉢~ 胴上部	(口径216), <高104>	○磁砂, 磁糠 ●外) 紫灰色, 黒白色 内) 黒褐色 褐色		横方向ナデ	宝徳寺 11~12世紀 10世紀末代 2M-P1新 掘
8	2M 9	焼成粘土塊	四角あり	26×25×16.5 7.1g	○赤褐色磁子 ●赤褐色, 灰褐色		ごつごつした状態	2M-P1新 掘
9	2M 22	焼成粘土塊	円形	28.3×26×21.3 13.4g	○赤褐色磁子 ●赤褐色			2M-P1新 掘
10	2M 32	瓦片	破片	<45>×33.5×18.5 54.3g	○白色系の凝帯赤石 ●紫灰色, 黒褐色		横口以外5面使用	2M-P1新 掘
11	2M 21	石製品か	破片	93×86×57 42.1g	○多孔質の石 ●灰褐色		やや厚から一面あり, 縄文時代遺物の破片か。	2M-P1新 掘
12	185P 1	陶器 すり鉢	圓一 底形	(最大径100), 底径62 <高71>	○赤褐色の凝帯赤石 ●紫褐色, 黒白色		口口成形 底外) 赤切痕 外) 横方向ナデ 内) すり目目4本単位, 間隔3ミリ。底面に1稜部。 特別に10単位。後部部4区画(新) 一次室部1稜部	新井丸遺跡 13世紀後半 ~16世紀初
13	185P 6	鉄製品	欠損品	<95>×18~24× 25~4, 9.5g			刃は認められない	
14	183P	焼成粘土塊	方形 円形	30×37×12 15g	○磁砂 ●紫褐色の筋と新土褐色の筋		片面に沈積, 四角あり	
15	183P 1	鉄製品 遺物	方形	61×30.5×6 36.4g			新掘四角 (径6ミリ)	
16	183P 2	鉄製品 丸釘	欠損	35×径3 0.8g				
17	183P 10	鉄線		47×20×25 34.4g		●赤褐色, 褐色, 紫灰色	直みあり	
18	129P 6	瓦質土器 鉢	口鉢~ 胴上部	(口径200), <高36>	○磁砂, 磁糠 ●灰褐色		口口に沈積, 外) 横方向ナデ 内) 横方向ナデ	
19	1M 3	かわらけ	口鉢形	(口径80), <高20>	○赤褐色磁子, 凝帯赤石, 磁砂		横方向ナデ	
20	1M 11	赤褐色土器 土器	口鉢形	(口径200), <高40>	○磁砂, 磁糠 ●外) 灰褐色 内) 淡褐色		横方向ナデ	123P新掘
21	1M 34	赤褐色土器 土器	口鉢形 (口径240), <高16>		○赤砂 ●外) 紫色 内) 紫褐色		外) 横方向ナデ 内) ナデ, 蓋子の上	1M-C新掘
22	1M13	中世	残っている	56×37×53.5 161.5g	●灰褐色		一面のみ平滑 (台石の埋れたもの)	123P新掘
23	7P 1	かわらけ	碗形 (口径98), <高13>		○磁砂, 磁砂 ●赤褐色		口口成形 底外) 赤切痕 内) ナデ	
24	89P 1	かわらけ	口鉢形 (口径70), <高13>		○磁砂 ●灰褐色		口口成形, 横方向ナデ	
25	77P 1	磁石	破片	46×33.5×14.5 29.6g	○白色系の石 ●灰褐色, 暗褐色		3面使用	
26	93P 1	瓦質土器 鉢	口鉢一 胴上部	(口径281), <高15>	○磁砂, 磁砂 ●灰褐色, 暗褐色		口口に凝帯赤石 外) 横方向ナデ 内) 横方向ナデ	
27	132P 1	陶器 すり鉢	碗形 (最大径211), <高84>		○凝帯赤石 ●紫褐色 (輪郭)		口口成形 底外) 赤切痕 内) すり目径200~225ミリ	近世
28	132P 3区	陶器 皿	西台付底形 (高台径90), <高11>		●白色			
29	3M-P3 3M 106	瓦質土器 3点組合	碗形 (口径200), <高30>	102×31×20 62.1g	○白色系の凝帯赤石 ●紫褐色, 紫白色		4層使用, 両端が突出	
30	2M 57	瓦質土器 口鉢形	口鉢形 (口径252), <高30>		○磁砂 ●外) 赤褐色 内) 黒褐色		外) ナデ, 横方向ナデ 内) ナデ	
31	3M-P15 3M 104	管状土器 碗形	碗形 38×14×13, 孔径6×4, 6.3g		○磁砂, 磁砂 ●紫褐色, 暗褐色		口口成形 両端のみの, 凝帯赤石M-3丁で四十した	
32	3M 110	瓦質土器 鉢	口鉢形 (口径202), <高87>		○磁砂, 凝帯赤石 ●外) 灰褐色 内) 紫褐色		口口成形 横方向ナデ	
33	3M	瓦質土器 すり鉢	口鉢~ 胴上部	(口径300), <高69>	○磁砂, 磁砂, 凝帯赤石 ●外) 灰褐色 内) 褐色		口口成形 底外) 横方向ナデ 内) 横方向ナデ すり目が見える	10世紀後半 ~16世紀
34	3M 44	碗形	破片	228×142×24 1,074.4g	○凝帯赤石 ●紫褐色		凝帯赤石の下の 文字が逆面に押られたようだ。片側用皿か。	
35	3M 11~ 25~26, 78	瓦質土器 鉢	口鉢形 前型	(口径277), <高84>	○磁砂 ●外) 赤褐色 ●外) 黒色, 灰褐色 内) 赤色, 灰褐色, 褐色		外) 横方向ナデ 内) ナデ	推定しない 瓦, 同 様
36	3M 36~ 37	瓦質土器 底形	底形 (口径130), <高40>		○磁砂 ●外) 赤褐色		底外) ヘタ厚みか, 痕跡	
37	6M 3	陶器・瓦	胴下部一 底形 高台付	上口径80, (口径300), <高143>	○凝帯赤石 ●灰白色 (輪郭)		口口成形, 高台部は1稜部	本形部 13世紀 1480~1500年
38	9M 5~ 6	陶器 鉢	口鉢形	(口径200), <高30>	○磁砂 ●外) 赤褐色		口口成形 外) 横方向ナデ 内) ナデ 一次室部1稜部	新井丸遺跡
39	10M 7	陶器・瓦 底形	碗形 <95>×65×5~19 55.1g		○凝帯赤石, 凝帯赤磁子多 ●外) 淡褐色, 紫色, 内) 淡褐色		外) 一部に六角形部が残るが ほつれと認められる。 断面は3稜部残っている 内) 斜方向へ張り残ナデ	倉庫跡
40	10M 23	陶器 鉢	碗形 1/2 (口径117), <高13>		○凝帯赤石 ●外) 灰白色 内) 紫褐色		口口成形 底外) 赤切痕 内) 横方向ナデ 内) ナデ, ミガキ	
41	11M	陶器 鉢	口鉢形	(口径352), <高39>	○凝帯赤石 ●凝帯赤石 (輪郭), 黒白色 (無輪郭)		口口成形	後醍醐式瓦(内)
42	11M 8	鉄製品 丸釘	欠損小	<81.5>×7.5×7 16.3g			上端がわずかに曲がる	
43	13M 9	瓦質土器 鉢	口鉢形 口径110, 高さ19.5		○凝帯赤石, 凝帯赤磁子多 ●凝帯赤石, 凝帯赤石		口口成形, 口口口は不明 底外) 赤切痕 内) ナデ	16世紀
44	<ベトD1 40	瓦質土器 鉢	口鉢形	(口径300), <高25>	○凝帯赤石, 凝帯赤石 ●凝帯赤石		口口成形 外) ナデ 内) 横方向ナデ-ミガキ	
45	調査品	塊	碗形	口径84, 底径44, 高さ 11, 高台径10~11	○凝帯赤石, 凝帯赤磁子多 ●凝帯赤石, 凝帯赤石		口口成形, 口口口は不明 底外) 赤切痕 内) ナデ	個人蔵

数の溝が合体しているのかもしれない。その意味で、9Mさらに8Mも「複数の溝」の一部なのかもしれない。

11M溝跡

出土遺物 22点。内訳は、土師器15点、須恵器1点、陶器1点、素焼土器2点、鉄製品1点、鉄滓1点、小礫1点である。須恵器・陶器・鉄釘を図示した（第10図44、第7表、第24図41・42、第13表）。特記事項 北部の1D住居跡付近では明瞭な南北方向の溝で、硬化面を伴っていた。南部では不明瞭になり、西へ曲がり、2条の細い溝になるようである。方向性から見て3区の8M～10Mなどとつながるのかもしれない。大型土坑155Pとの関係はわからなかった。陶器41は、瀬戸美濃の折縁深皿で15世紀中頃と推定される。中世遺物の中では古手に属することになる。

12M溝跡

覆土 上部がローム質の褐色土、下部が、黄色スコリアを含み、径1～4cmのロームブロックをまばらに含む暗褐色土であった。出土遺物 21点。内訳は、土師器18点、貝殻（アカニシカ）1点、小礫1点等である。特記事項 15M溝跡につながるかもしれない。

13M溝跡

覆土 北側の観察では、暗褐色土で、径1～3mmの黄色スコリア・径1～2cmのロームブロックともに多量含んでいた。南側では、上部が黄色スコリアを含む暗褐色土、下部が褐色土であった。出土遺物 総数75点。内訳は、土師器70点、陶器3点、かわらけ1点、焼成粘土塊1点。かわらけを図示した（第24図43、第13表）。特記事項 16M溝跡につながるかもしれない。

14M溝跡

出土遺物 34点。内訳は、土師器27点、陶器1点、焼成粘土塊2点、鉄製品1点、貝殻（マガキカ 写真図版8）1点、小礫2点である。特記事項 プラン等わかりにくかった。

15M溝跡

覆土 暗褐色土。黄色スコリア、白色粘土を含む。出土遺物 常滑産の甕片1点、土師器1点。

16M溝跡

覆土 黄色スコリア、粘土を含む暗褐色土。黄色スコリアを少量含む暗褐色～黒褐色土。出土遺物 土師器4点。

本報告書中では遺構として取り扱わなかった溝跡（根切溝の類）からの出土遺物をまとめておく。

6M 13点出土。内訳は、土師器5点、素焼土器3点、陶磁器類3点、小礫2点である。陶器1点を図示した（第24図37、第13表）。

7M 20点出土。内訳は、土師器13点、磁器4点、弥生土器1点、素焼土器1点である。弥生土器を図示した（第6図4、第3表）。

18M 土師器坏1点出土。図示した（第9図27、第6表）。

第6節 各区の遺構外遺物

各区で遺構外出土として取り上げた遺物について触れておく。

1区（ベルト01の南） 土師器2点。

2区（ベルト01の北） 土師器5点、焼小礫1点。

3区（西の飛び地） 15点。内訳は、土師器9点、焼成粘土塊2点、石製紡錘車1点、石盤1点、鉄滓1点、小礫1点である。石製紡錘車を図示した（第10図41、第6表、第22図）。

4区（11M溝跡から西） 土師器18点、素焼土器1点

5区（11M溝跡の東、1区・2区の西） 土師器5点、焼成粘土塊2点。

第3章 成果と課題

今回の調査について以下にまとめる。

1 縄文時代

遺構は、陥穴が6基である。調査区東部に3基(34P・2M・P2・125P)、中央西寄りに3基(152P・153P・154P)が存在した。153Pを除いた5基は底面が細くなるタイプである。縄文土器が伴ったのは125Pで、早期条痕文土器片かと思われるが、胎土に繊維を含んでいない。154Pでは覆土の在り方に掘り返しのような状況が見られた。

本遺跡のこれまでの調査では、縄文時代の知見は特に無かったため、本地点において新たな知見を得たことになる。

2 弥生時代 奈良・平安時代

本遺跡では、縄文時代と同様、弥生時代、奈良・平安時代についてもこれまでは検出事例が無かった。土器片がわずかに確認されたのみであるが、新知見を得たことになる。

3 古墳時代

本遺跡は古墳時代中～後期の遺構・遺物が主体と認識されていた。d地点の調査によって黙穴住居跡1軒、土坑3基などの遺構と、土師器多数や石製模造崙(双孔円板)2点等の遺物を資料として加えることができた。

4 中・近世

d地点の特筆すべき成果は、中世の遺構・遺物の発見である。台地端部を標高20m前後まで削り、そこに地下式坑を初めとする多くの土坑が掘られていた。地下式坑は9基で調査区の中央にまとまっていた。他には、大型土坑が3基、浅い窪みと土坑から成る遺構3基、その他大小様々な土坑が約200基である。土坑の用途は不明であるが、1M・C土坑からは人歯が出土しており、方形土坑は墓坑である可能性が高い。方形土坑は20基である。柱穴状のものは少なく、斜めに掘られたものの方が多かった。浅い窪み状のもの、底面が階段状になるものなどがあつた。溝跡も多く確認されたが部分的な調査に留まった。近世の遺構も含まれているものと推測する。中世の遺物は、15世紀後半～16世紀代を主体とするようで、中世末の遺跡と捉えることができる。

大和田は、さくらみち(後になりたみち)の宿場として、江戸時代には成田山の参詣者で賑わっていたと考えられる。その大和田は、文禄4(1595)年と推測される「伊奈忠次等運署手形」文書に、「さくら」「うす井」「ふなはし」等と並んで「大わた」と記されており、16世紀末には継場として認識されていたらしい。このような大和田宿の成立史を語るうえで小板橋遺跡d地点の成果は意義深いことと考える。しかし、本報告においては詳細な分析に至っておらず、今後の課題としたい。

参考文献

- 八千代市教育委員会(1983年)『八千代の遺跡—千葉県八千代市埋蔵文化財包蔵地所在調査報告書—』
- 八千代市史編さん委員会(1991年)『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』
- 八千代市遺跡調査会(2007年)『千葉県八千代市浅間内遺跡・白筋遺跡・沖塚遺跡』八千代市辺田前土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書
- 八千代市遺跡調査会(2008年)『千葉県八千代市小板橋遺跡—b地点埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- 八千代市史編さん委員会(2008年)『八千代市の歴史 通史編 上』
- 八千代市教育委員会(2013年)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成24年度』



(1) 調査前状況 - 1 -



(2) 調査前状況 - 2 -



(3) 1区・2区調査状況



(4) 2区北部調査状況



(5) 3区調査状況



(6) 4区・5区調査状況



(1) 125P土坑の土層断面



(2) 125P土坑完掘状況



(3) 154P土坑の土層断面



(4) 154P土坑完掘状況



(5) 1D住居跡完掘状況



(6) 50P土坑遺物出土状況



(7) 128P-A土坑遺物出土状況



(8) 156P土坑遺物出土状況



(1) ベルト01土層断面



(2) 調査区東壁土層断面



(3) 調査区北東壁土層断面



(4) 3区北壁土層断面



(5) 11P土坑土層断面



(6) 131P土坑土層断面



(7) 131P土坑完掘状況



(8) 156P土坑土層断面



(1) 157P土坑遺物出土狀況



(2) 157P土坑完掘狀況



(3) 158P土坑土層断面



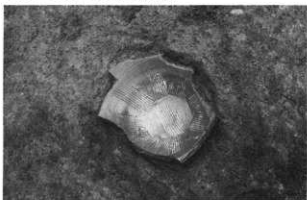
(4) 161P土坑完掘狀況



(5) 2MP1土坑土層断面



(6) 2MP1土坑完掘狀況



(7) 155P土坑遺物出土狀況



(8) 155P土坑土層断面



(1) I55P土坑完掘状況



(2) I63P土坑完掘状況



(3) I1遺構粘土検出状況



(4) I1遺構土層断面



(5) I1P遺構完掘状況



(6) I05P遺構完掘状況



(7) 2区北部土坑群-1-



(8) 2区北部土坑群-2-



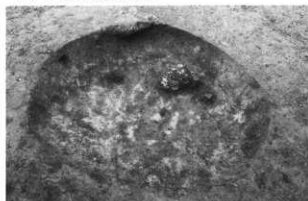
(1) 1M-A-B-C-D土坑完掘状況



(2) 115P土坑完掘状況



(3) 91P土坑完掘状況



(4) 100P土坑貝ブロック検出状況



(5) 2M溝跡完掘状況



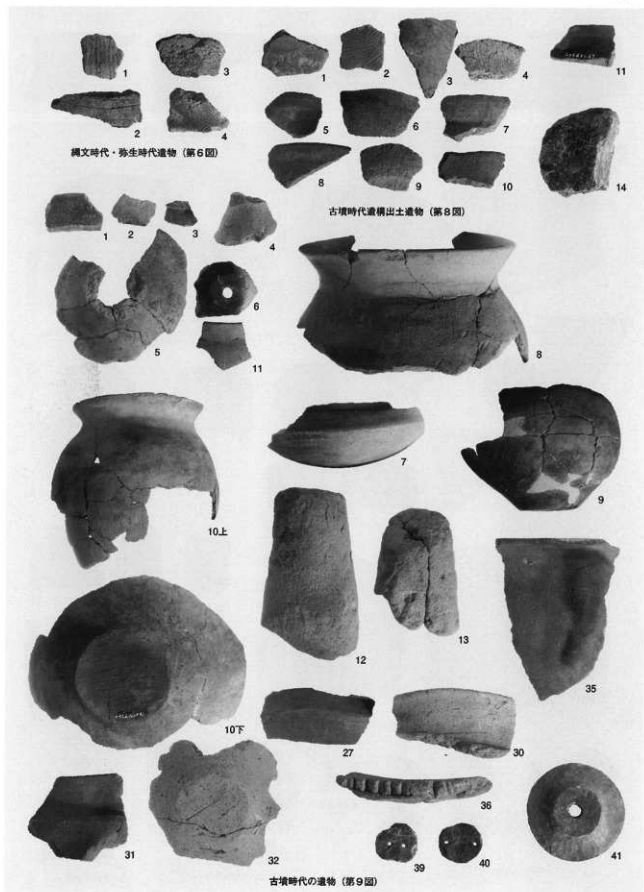
(6) 3M溝跡土層断面

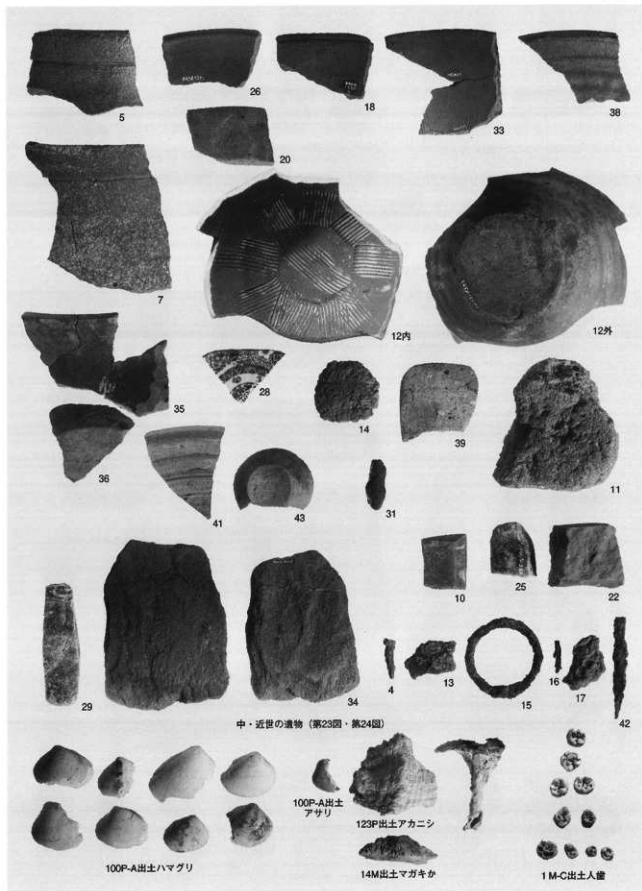


(7) 板碑出土状況



(8) 11M溝跡硬化面検出状況





報告書抄録

ふりがな	ちばげんやちよし こいたばいせきでいーちてん							
書名	千葉県八千代市小板橋遺跡d地点							
副書名	宅地造成地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
編著者名	常松成人							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138番地2 TEL 047 (483) 1151代表							
発行年月日	西暦2013年3月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こいたばいせきでいーちてん 小板橋遺跡d地点	ちばげんやちよしの 大和田字中畑ヶ169-1・3・4、 165-25、167	1221	245	35度 42分 59秒	140度 6分 33秒	2011.11.10 ～ 2012.02.21	1,177	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小板橋遺跡d地点	包蔵地	縄文時代	陥穴6基	縄文土器	
	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡1軒、土坑3基	古墳時代土師器 石製織造基、石製紡錘車	
		中・近世	台地整形遺構、地下式坑9基、 大型土坑3基、特殊遺構3基、 土坑168基、溝状遺構2基、 溝跡11条	中世陶器(瀬戸美濃産、常滑産)、 瓦質土器(すり鉢等)、板碑、管 状土師 近世陶磁器	
要約	<p>縄文時代の遺構は、陥穴が6基である。154Pでは覆土の在り方に掘り返しのような状況が見られた。縄文土器は3点である。弥生土器は1点、奈良・平安時代土器は少数であった。本遺跡では、縄文時代、弥生時代、奈良・平安時代についてはこれまでに検出事例が無かったので、新知見を得たことになる。</p> <p>古墳時代については、竪穴住居跡1軒、土坑3基の遺構と、土師器多数や石製織造品(双孔円板)2点等の遺物を資料として加えることができた。</p> <p>d地点の特筆すべき成果は、中世の遺構・遺物の発見である。台地端部を標高20m前後まで削り、そこに多くの土坑が掘られていた。地下式坑は9基で調査区の中央にまとまっていた。大型土坑が3基、浅い窪みと土坑から成る特殊遺構3基、その他大小様々な土坑が168基である。土坑の用途は不明であるが、1M-C土坑からは人歯が出しており、方形土坑は墓坑である可能性が高い。方形土坑は20基である。柱状のものも少なく、斜めに掘られたものの方が多かった。浅い窪み状のもの、底面が階段状になるものなどがあつた。溝跡も11条確認されたが部分的な調査に留まった。近世の遺構も含まれているものと推測する。中世の遺物は、陶器、瓦質土器、板碑などで、15世紀後半～16世紀代が主体である。中世末の遺跡と捉えることができる。</p> <p>近世の大和田宿の近隣の地で、中世末の遺跡が発見されたことは、大和田宿成立史を語るうえで意義深いことと考えられる。</p>				

千葉県八千代市小板橋遺跡 d 地点
- 宅地造成地内埋蔵文化財発掘調査報告書 -

発行日	平成 25 年 3 月 27 日
編 集	八千代市教育委員会 教育総務課 〒 276-0045 八千代市人和田 138-2 TEL 047-483-1151 代表
発 行	川 城 き よ
印 刷	金子印刷企画
